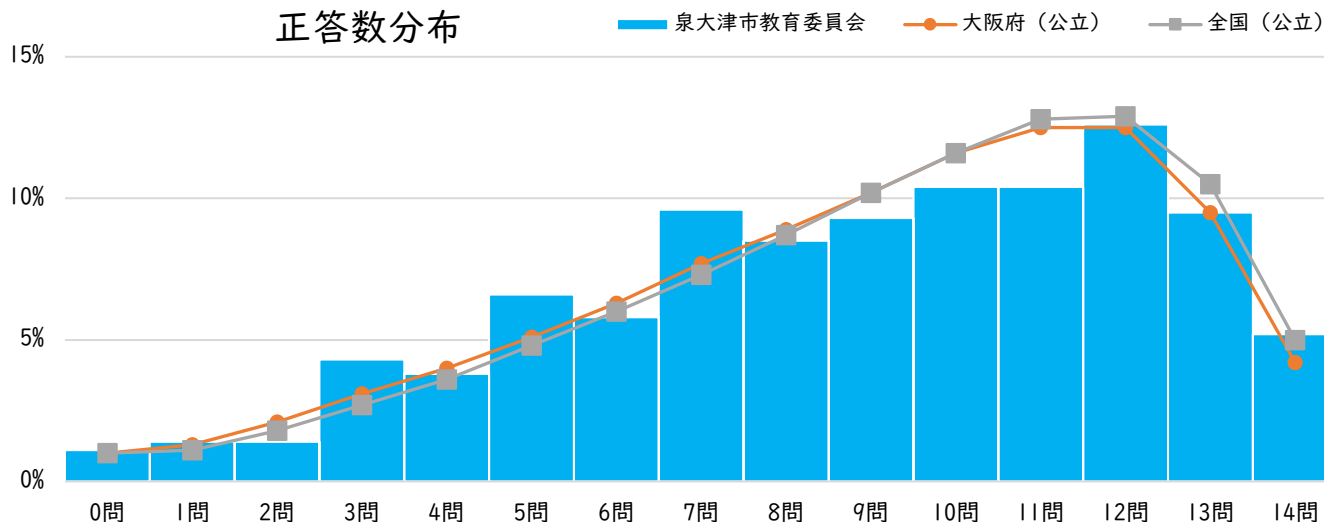


令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果詳細

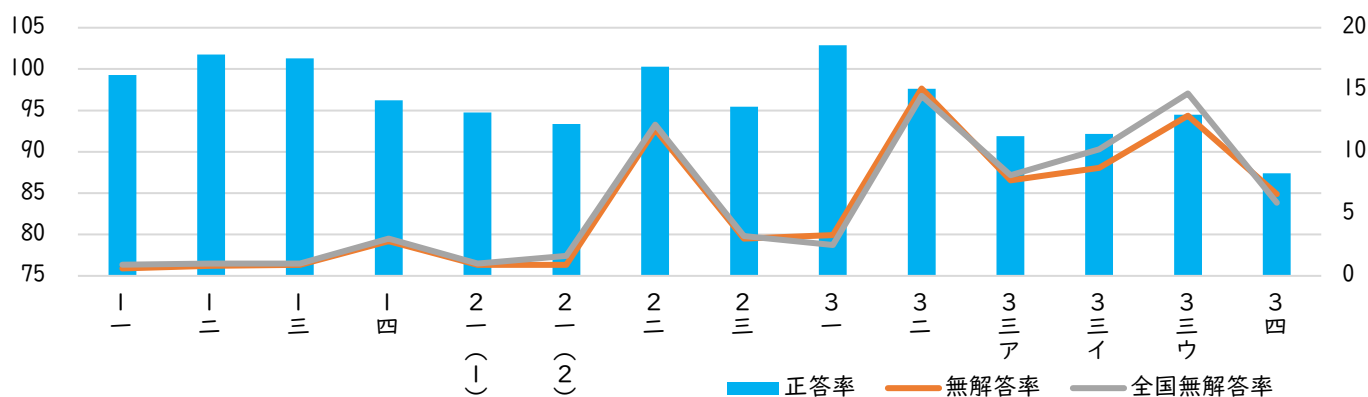
全国学力・学習状況調査《小学校》に関する結果詳細

小学校国語

正答数分布



問題別 正答率・無解答率



正答数の中央値は全国平均より1ポイント低くなりました。平均正答数も全国平均から0.3ポイント低くなりましたが、正答数分布を見ると、12問正解した児童の割合が最も多く、全国や大阪府の分布のピークと、大きな違いは見られませんでした。

問題ごとの正答率を、全国平均を100としたときの割合で比較すると、以下のような問題で課題が見られました。

3三 「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」

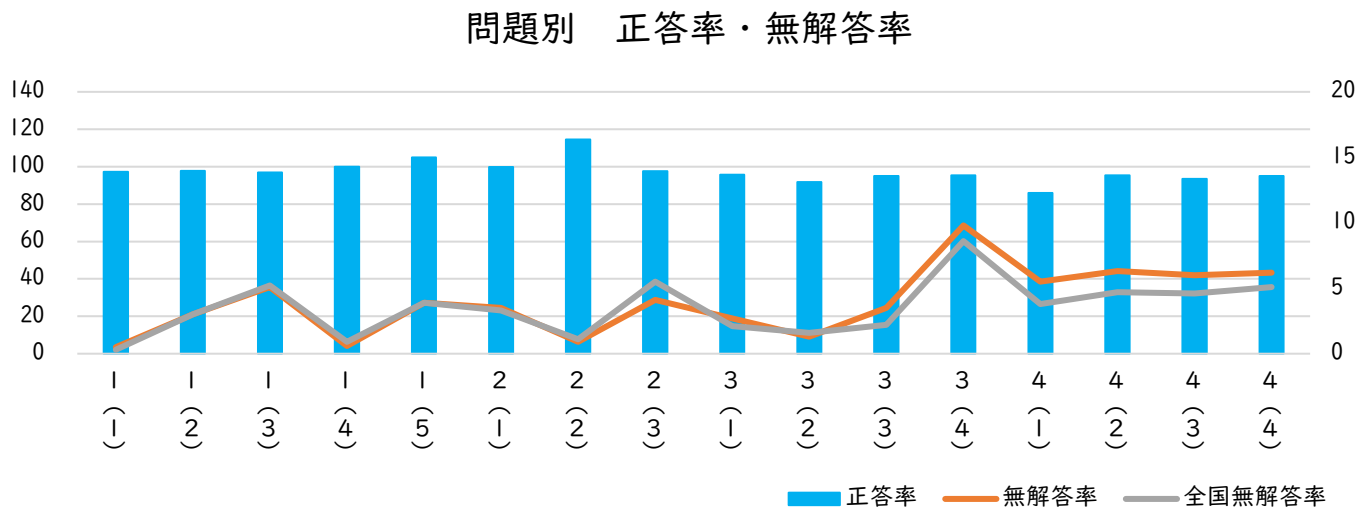
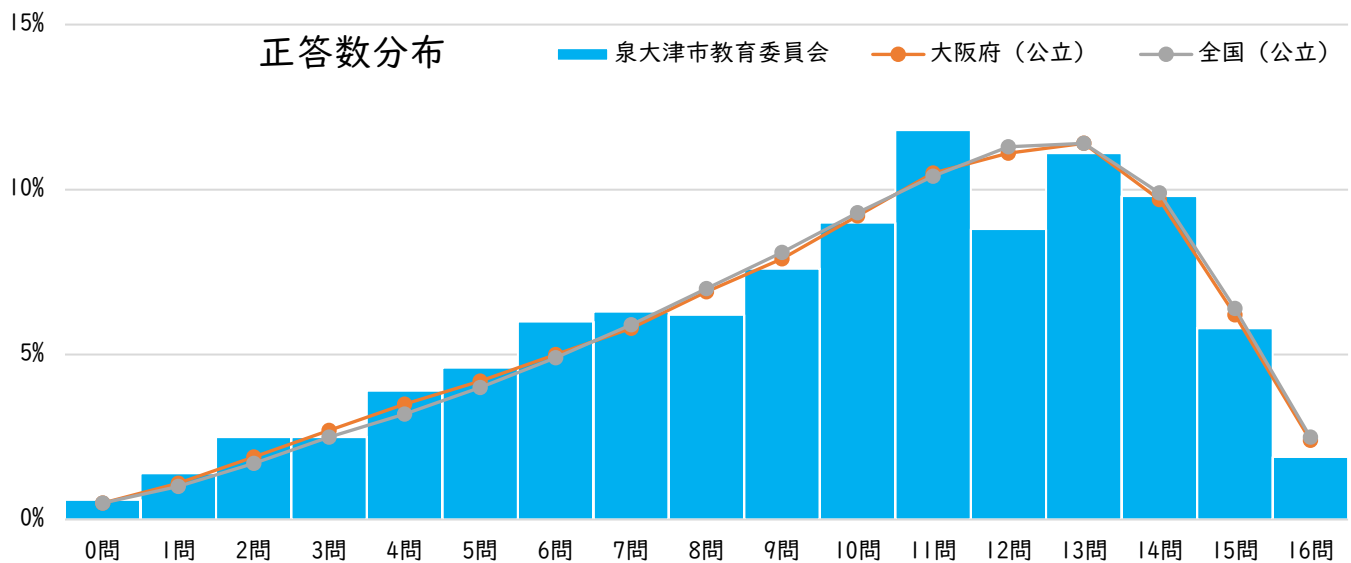
3四 「漢字や仮名の大きさ, 配列に注意して書く」

どちらも、漢字等を書くことに関する問題です。

3三に課題が見られることから、漢字を学習した際に、教科書やドリル等に出てきた熟語を覚えるだけでなく、必要に応じて既習漢字を使いこなせる力を身につけることが必要だといえます。

また、3四の正答率からは、行の中心に文字の中心をそろえて手紙を書き直していることを捉えられなかった児童がいたことが分かります。日常的に、相手にとって読みやすいかということを意識して書くことや、毛筆で学習したことを日常生活で生かすことを意識することも大切だといえます。

小学校算数



正答数の中央値は全国平均より1ポイント低くなりました。正答数分布で見ても、11問正解した児童の割合が最も多く、全国や大阪府の分布のピークよりやや低く、平均正答数も全国平均から0.3ポイント低くなりました。

問題ごとの正答率を、全国平均を100としたときの割合で比較すると、以下のような問題で課題が見られました。

3(2) 「分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる」

4(1) 「正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる」

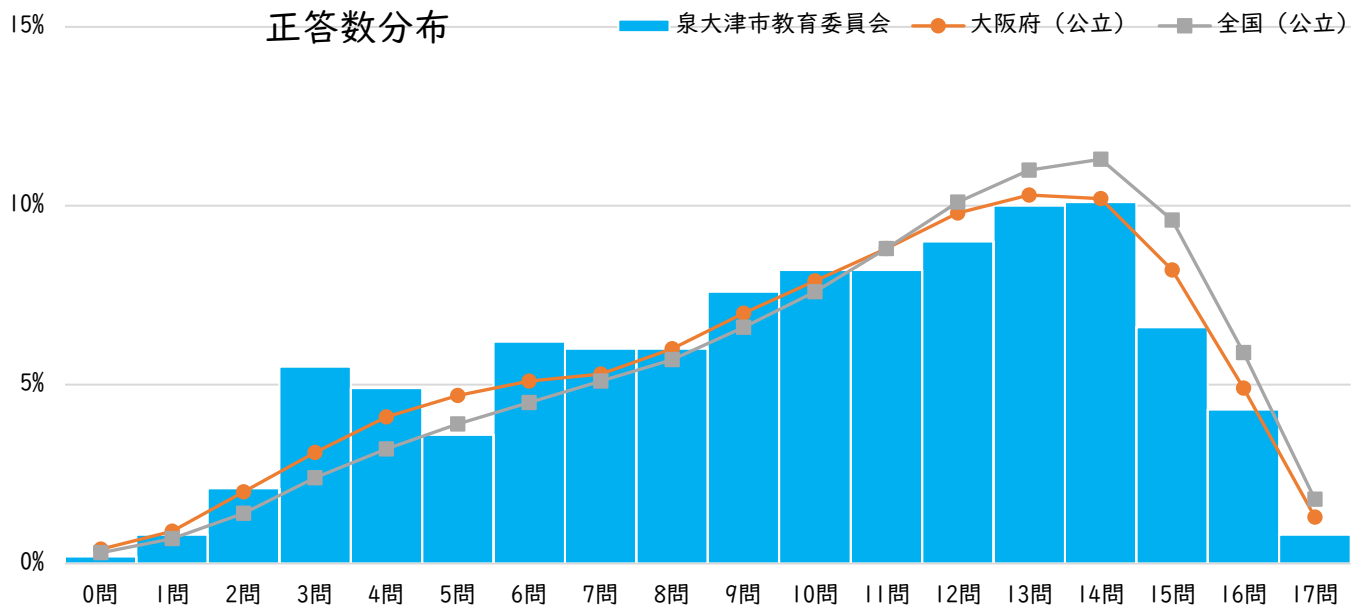
どちらもデータや図形の特徴を考察する問題です。目的に応じて、データや図形の特徴を多面的に読み取る力が求められます。

具体的には、3(2)では、分類整理されたデータについて、目的に応じて筋道を立て、考察する必要があります。

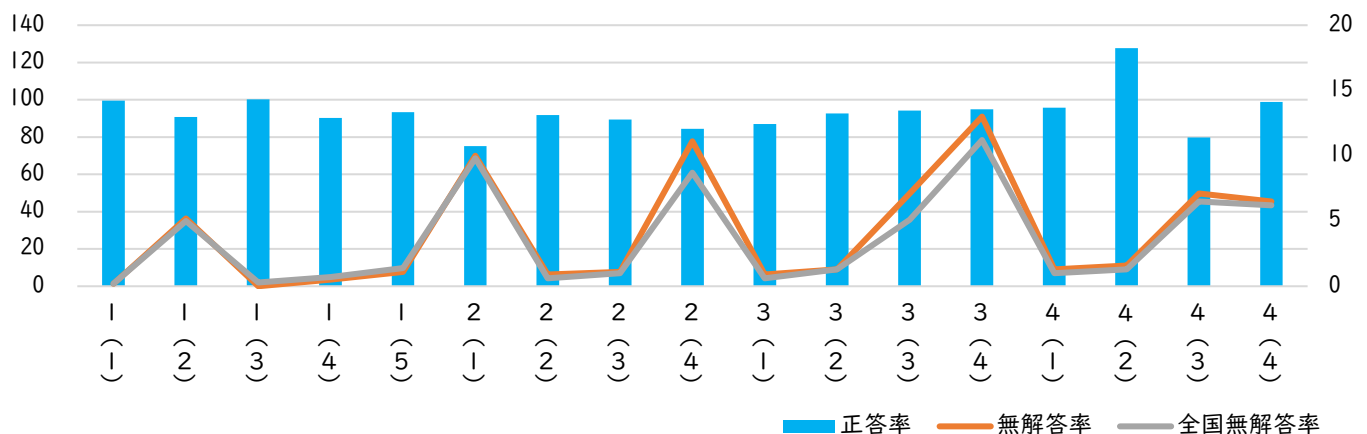
また、4(1)は、コンピュータを用いて図形を作図する際に、正方形のプログラムを基に作成した正三角形のプログラムについて改善する問題でした。「正三角形の一つの角の大きさが60°である」ことに着目するだけでは、正三角形が描けないことから、試行錯誤しながら、回転する角の大きさを120°にすることに気付く必要があります。

どちらの問題からも、既習の知識を活用しながら、多面的に物事を捉え、考察する力が不可欠といえます。

小学校理科



問題別 正答率・無解答率



正答数の中央値は全国平均より1ポイント低く、正答数分布を見ると、正答数が15問から17問の児童の割合が大阪府、全国よりも少なく、平均正答数は全国より0.9ポイント低くなりました。

問題ごとの正答率を、全国平均を100としたときの割合で比較すると、以下のような問題で課題が見られました。

2(1) 「メスシリンダーという器具を理解している」

2(1)の誤答を見ると、約10.9%の児童がメスシリンダーを試験管と回答しており、約7.1%の児童がビーカーと回答していて、器具の名称を正しく理解できていないことが分かります。このことから、グループ等で実験を行う中で、使用する機会が少ない器具について、用途等に対する理解が曖昧なまま使用しているということが考えられます。

また、無解答率が高かった問題の多くは、以下のような記述式の問題でした。

2(4) 「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、 自分の考えをもち、その内容を記述できる」

3(4) 「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」

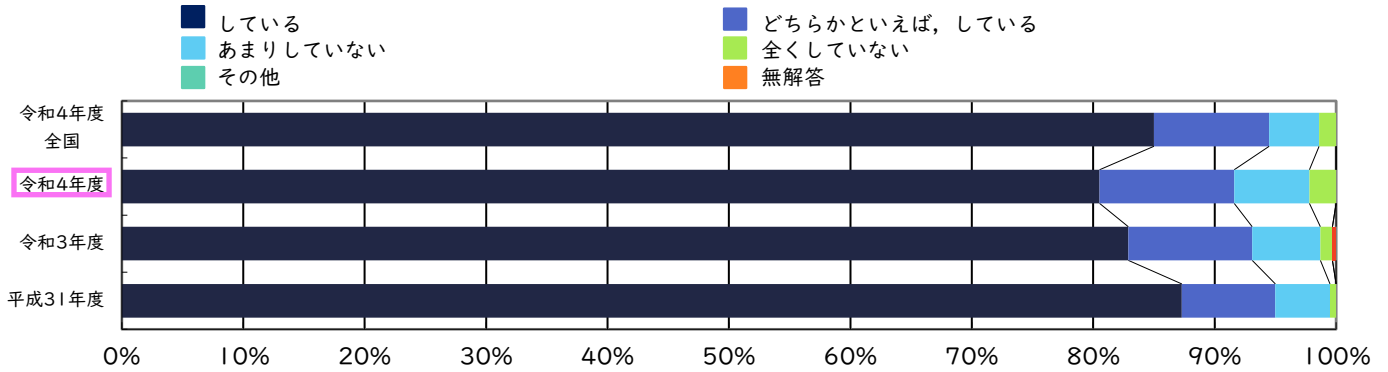
どちらも分析・解釈する中で、自分の考えをもち、記述する問題です。

2(4)は、比較の考えを働かせながら、他者の気づきとの差異点や共通点を捉えていくことが大切です。また、3(4)では、問題に対する予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、実験の結果を分析・解釈したことを、結論の根拠として表現する必要があります。どちらの問題からも、自然の事物・現象を知識として理解するだけでなく、実験や観察したことに対し、自分の考えをもち、表現する力が必要であるといえます。

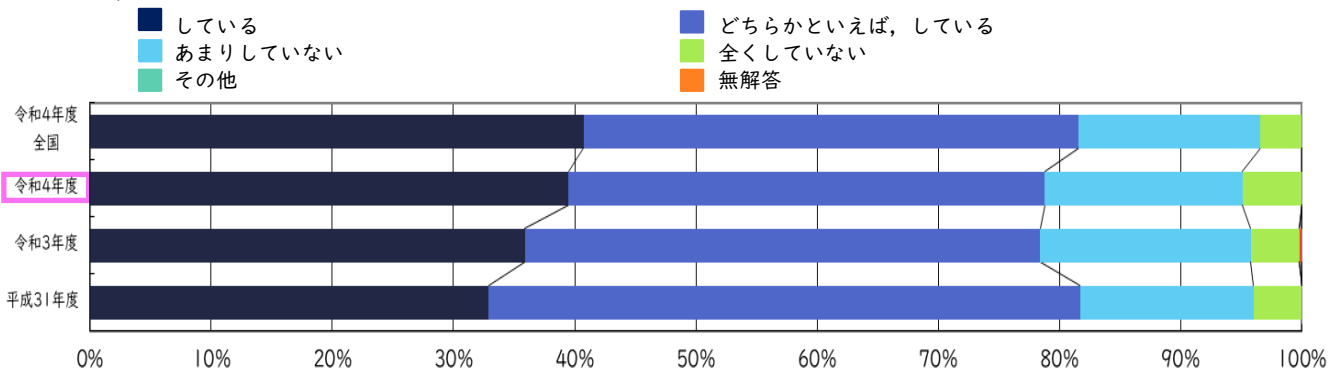
児童質問紙に関する調査結果 《基本的生活習慣》

※基本的には、平成31年度以降の調査結果を経年で記載しています。ただし、実施年度によって質問項目が変わりますので、平成31年度の調査結果がない項目もあります。また、今年度より新設されました項目もあります。

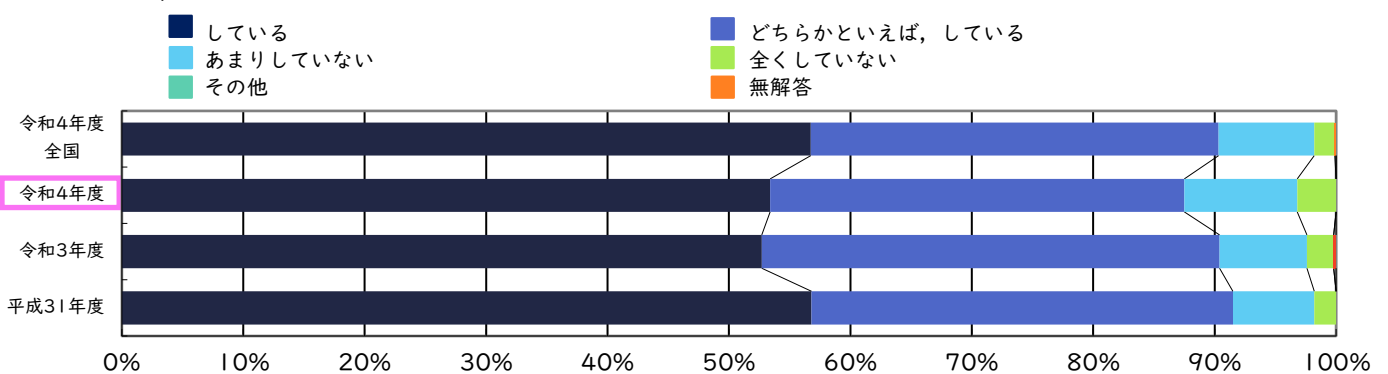
《質問》朝食を毎日食べていますか。



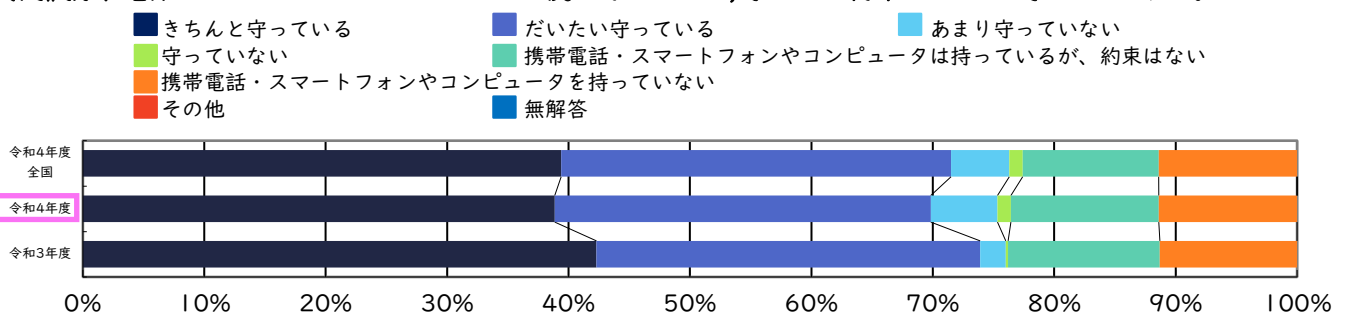
《質問》毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



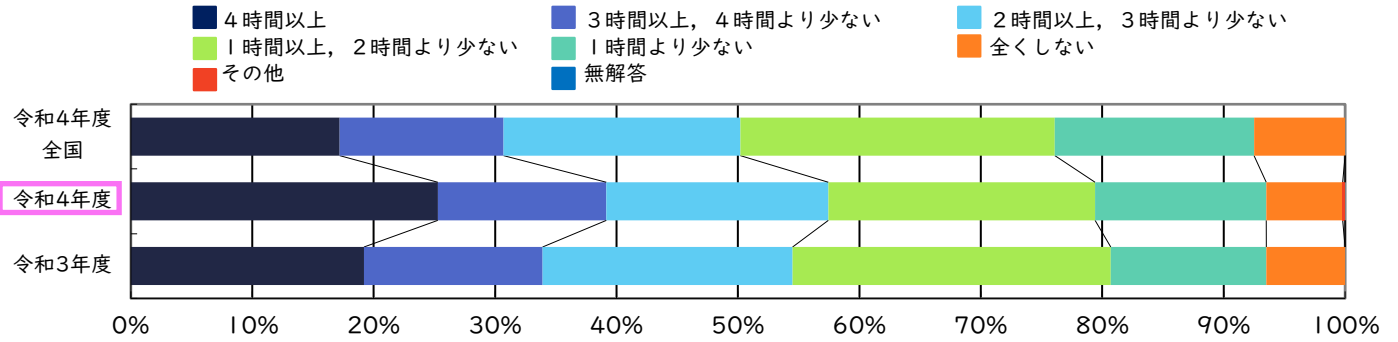
《質問》毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



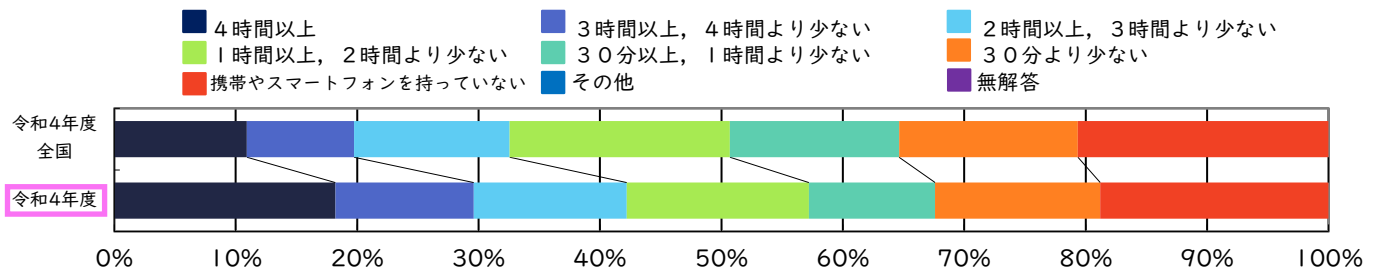
《質問》携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



《質問》普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



《質問》普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

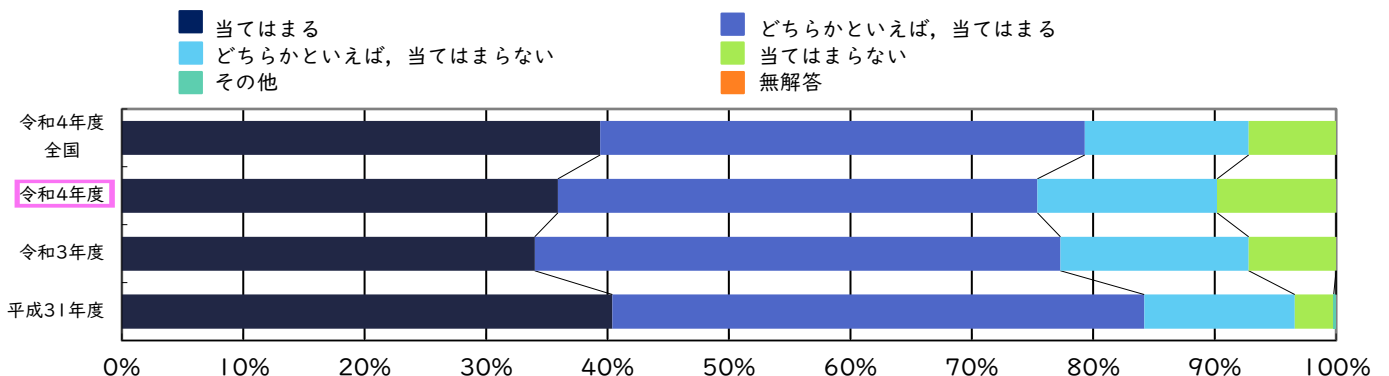


《基本的生活習慣》

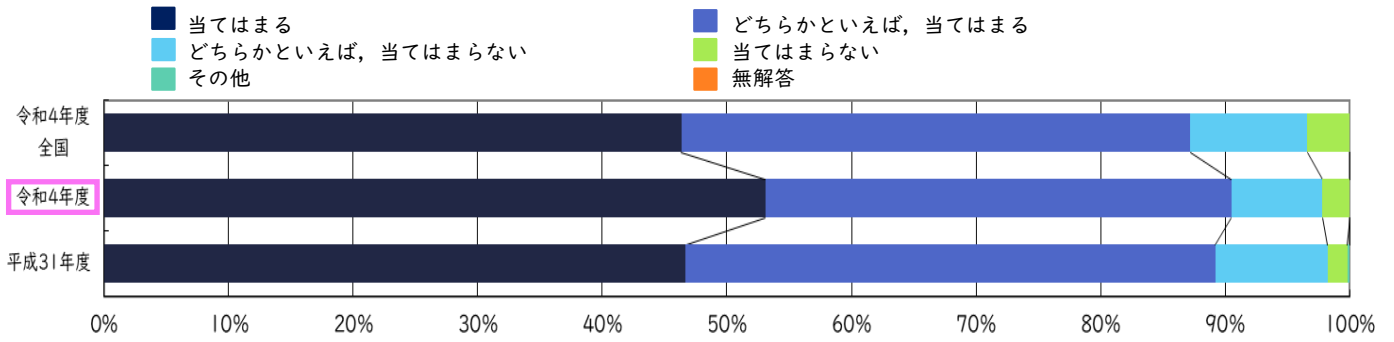
約90%の児童は、ほとんど毎日朝食を食べていますが、残りの約10%は、朝食をほとんど食べずに通学し、午前中の活動を行っていることが分かりました。また、起床・就寝時間が決まっている児童がほとんどですが、普段（月曜日から金曜日）55%を上回る児童が2時間以上テレビゲームを行い、40%を上回る児童が2時間以上携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴を行っていることも分かりました。テレビゲームや SNS、動画視聴時間が長いことから、起床・就寝時間は決まっているもの、睡眠時間は短くなっていることが考えられます。

児童質問紙に関する調査結果 《挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感》

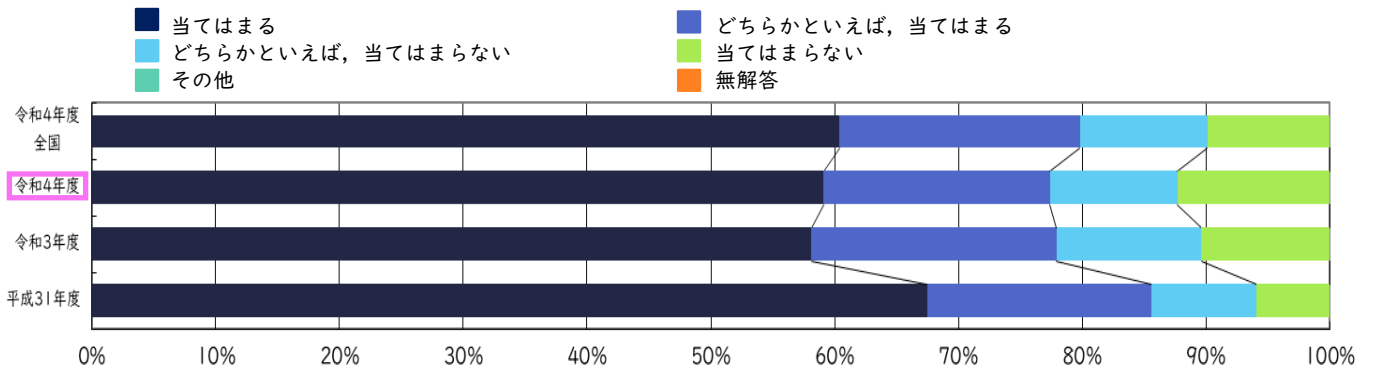
《質問》自分には、よいところがあると思いますか。



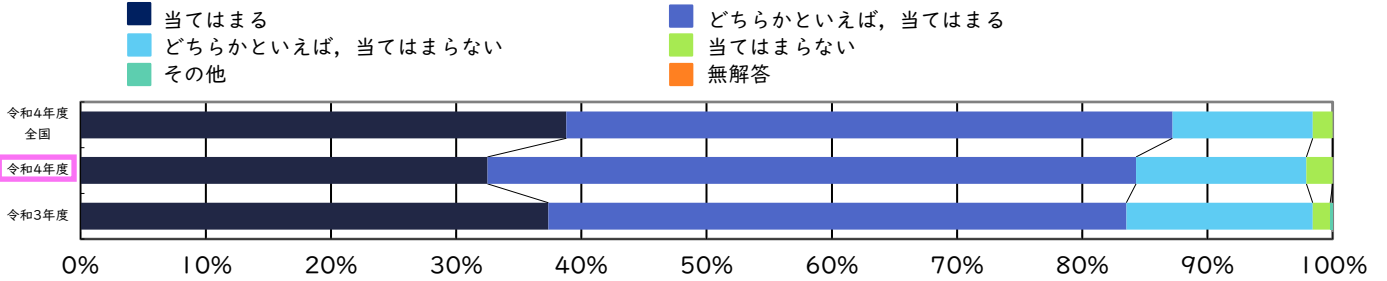
《質問》先生は、あなたのよいところを認めてくれていますか。



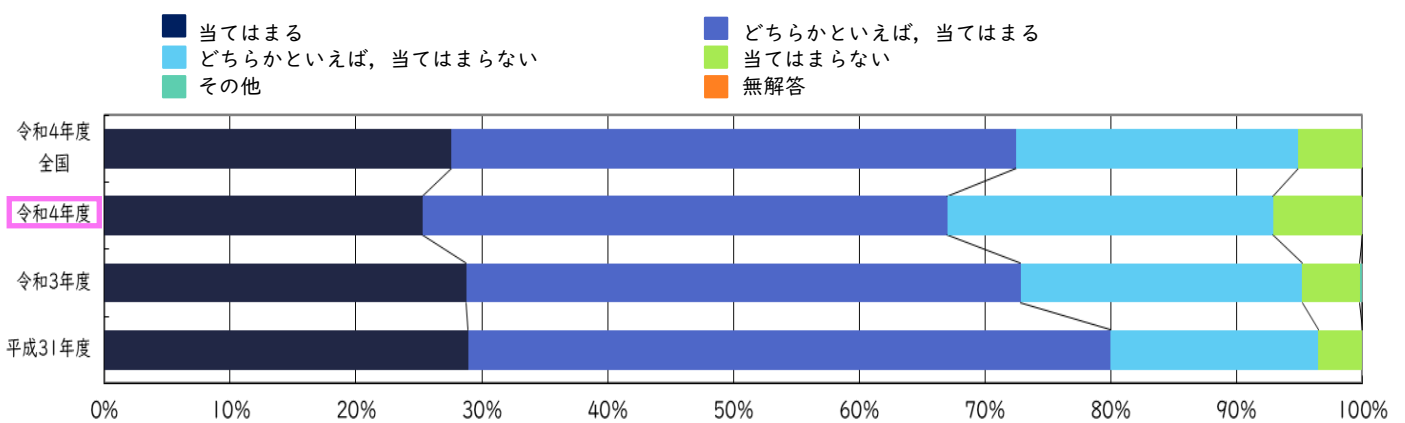
《質問》将来の夢や目標を持っていますか。



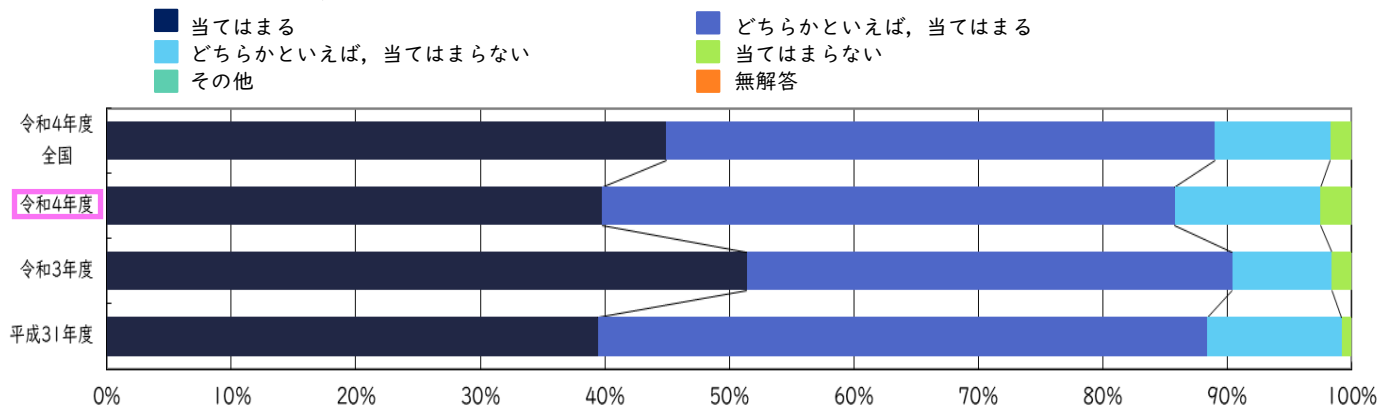
《質問》自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。



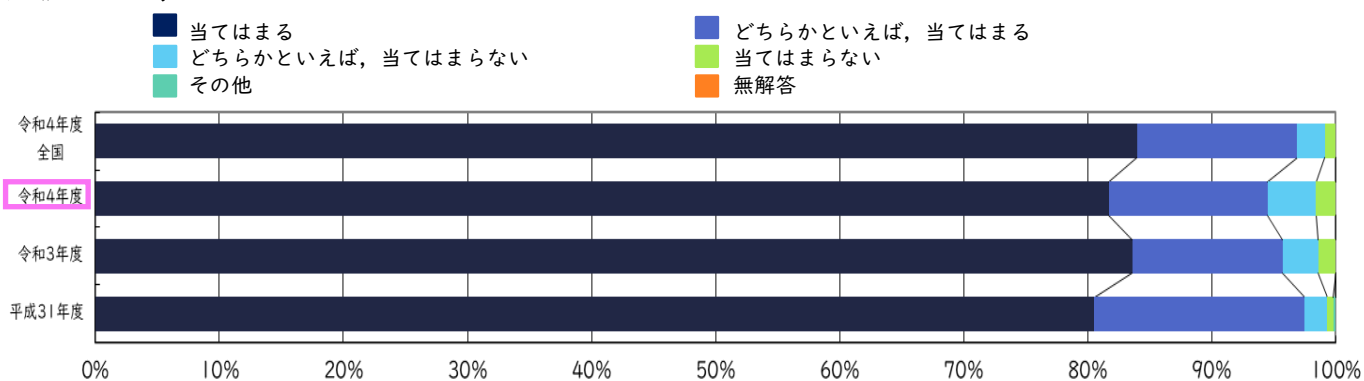
《質問》難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。



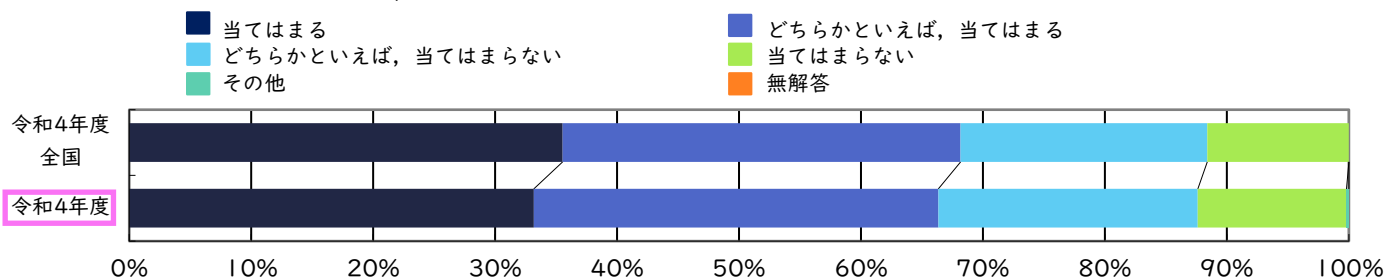
《質問》人が困っているときは、進んで助けていますか。



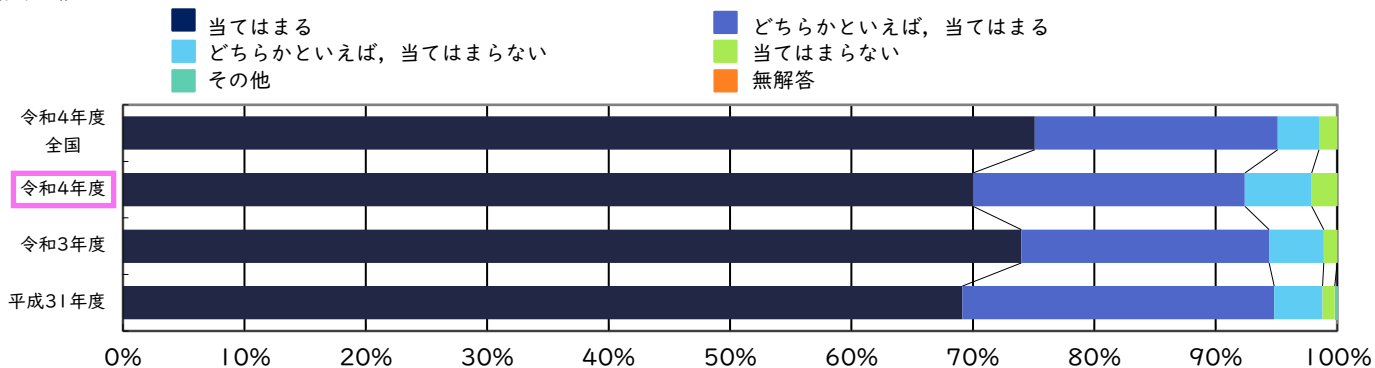
《質問》いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



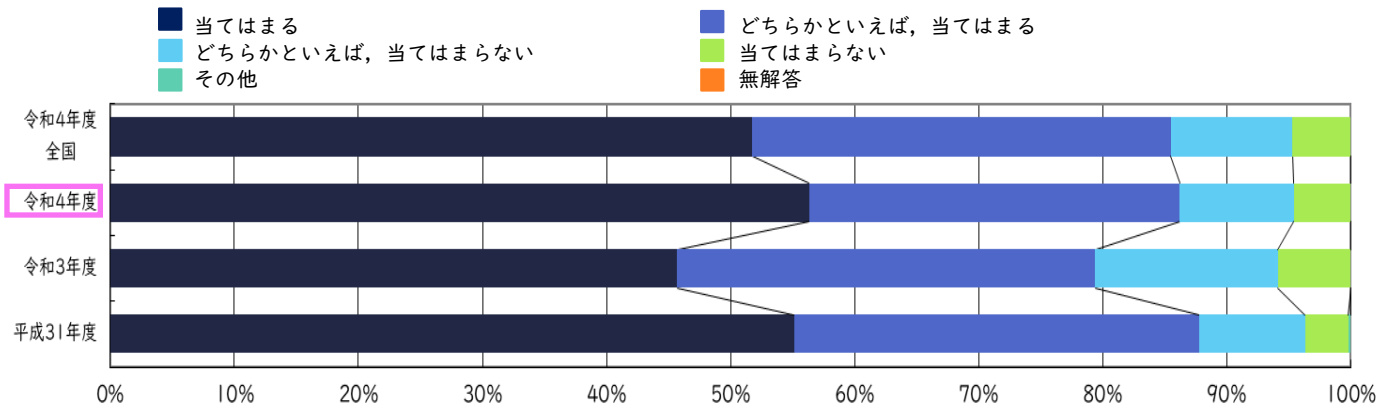
《質問》困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。



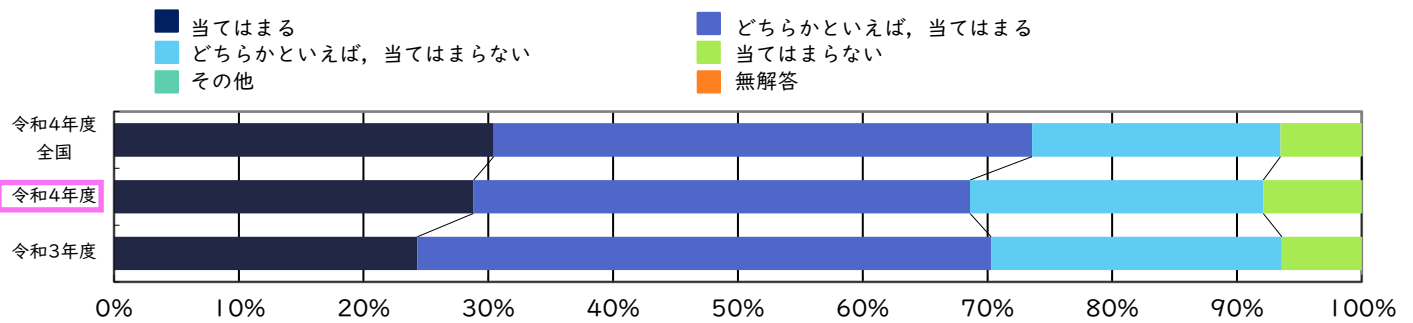
《質問》人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



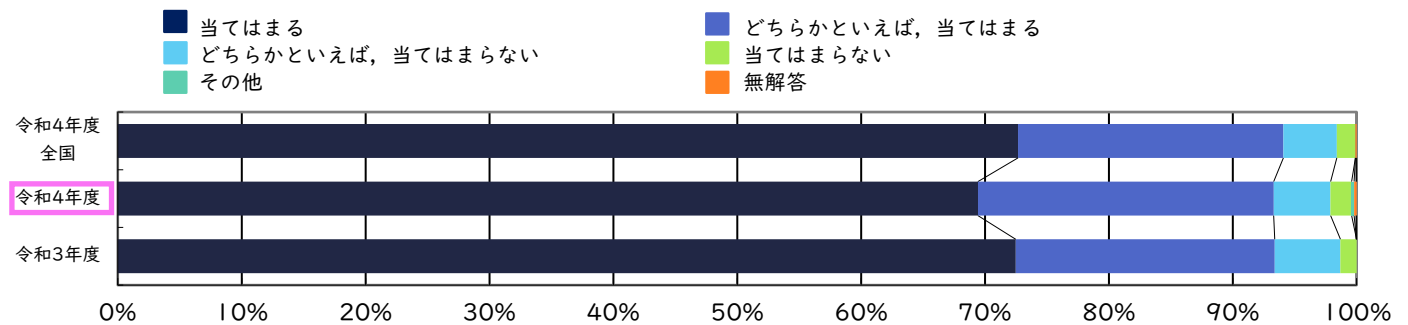
《質問》学校に行くのは楽しいと思いますか。



《質問》自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



《質問》友達と協力するのは楽しいと思いますか。

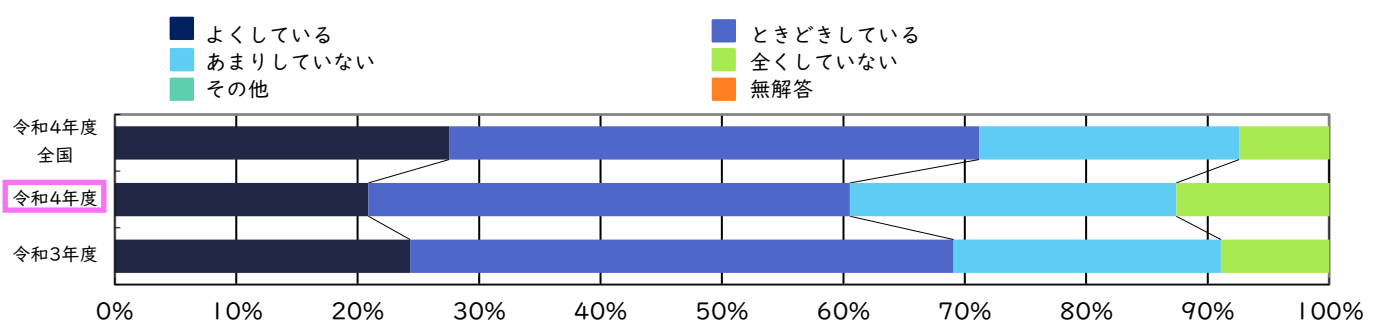


《挑戦心、達成感、基本意識、自己有用感》

先生はよいところを認めてくれていると回答している児童の割合は増加傾向にあるものの、自己肯定感や挑戦心には、課題が見られました。コロナ禍において様々な制限を受ける中、子どもたちが夢や希望を失わないためには、学校や地域・家庭など、身近な大人が子どもたちをサポートしていく仕掛けが必要であると考えます。

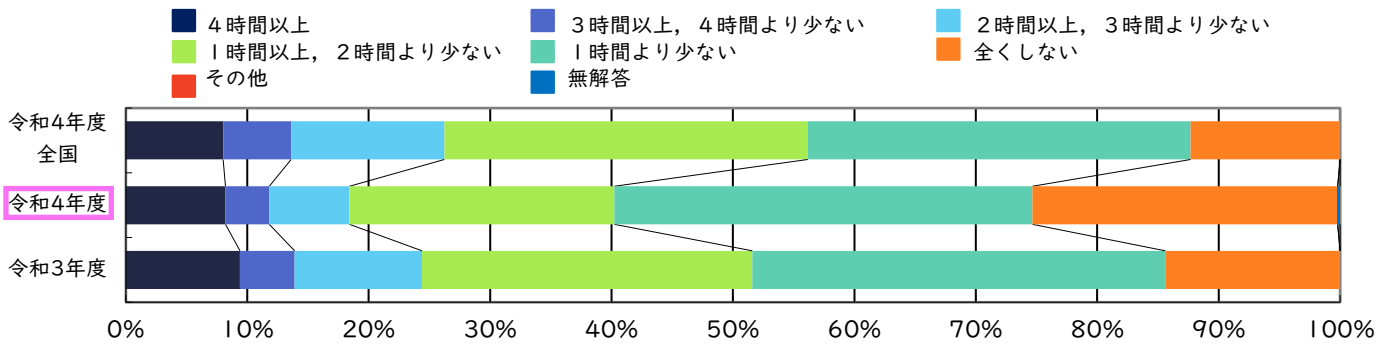
児童質問紙に関する調査結果 《学習習慣、学習環境》

《質問》家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)



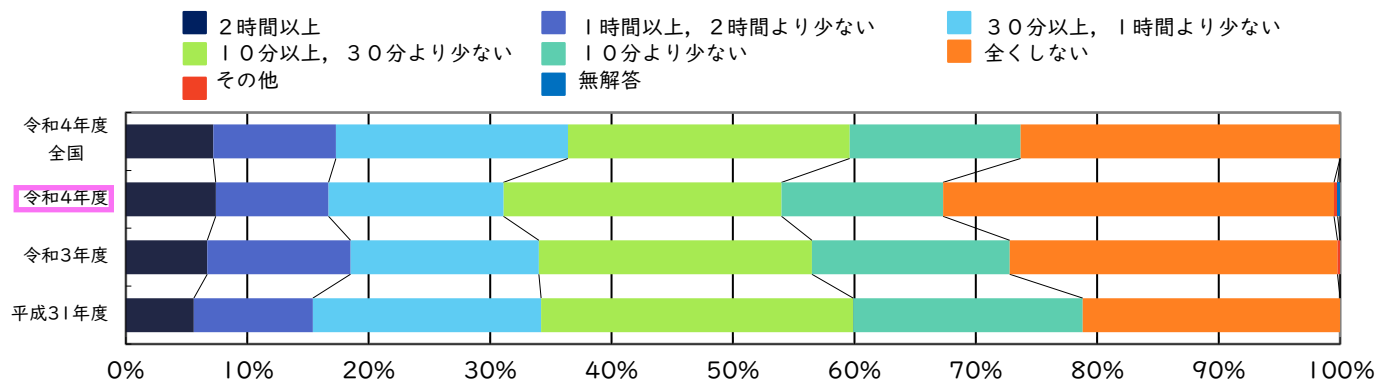
《質問》土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

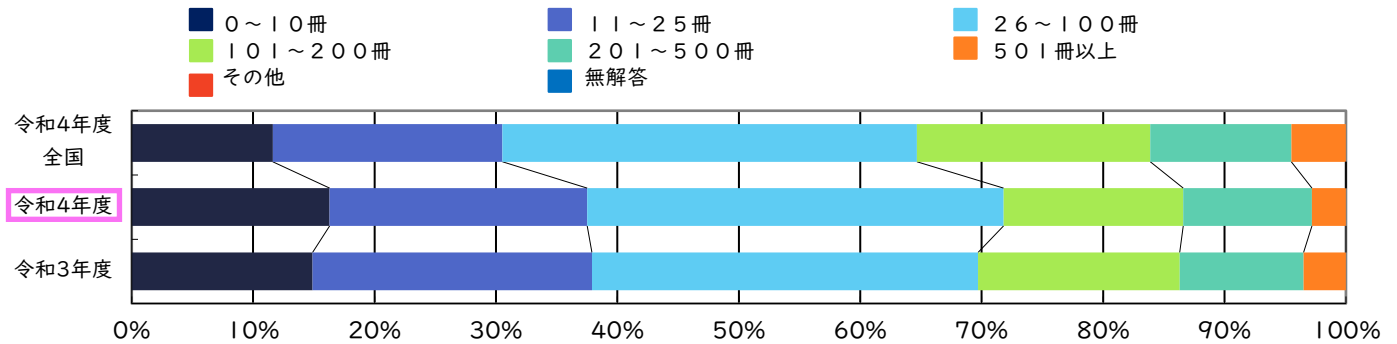


《質問》学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

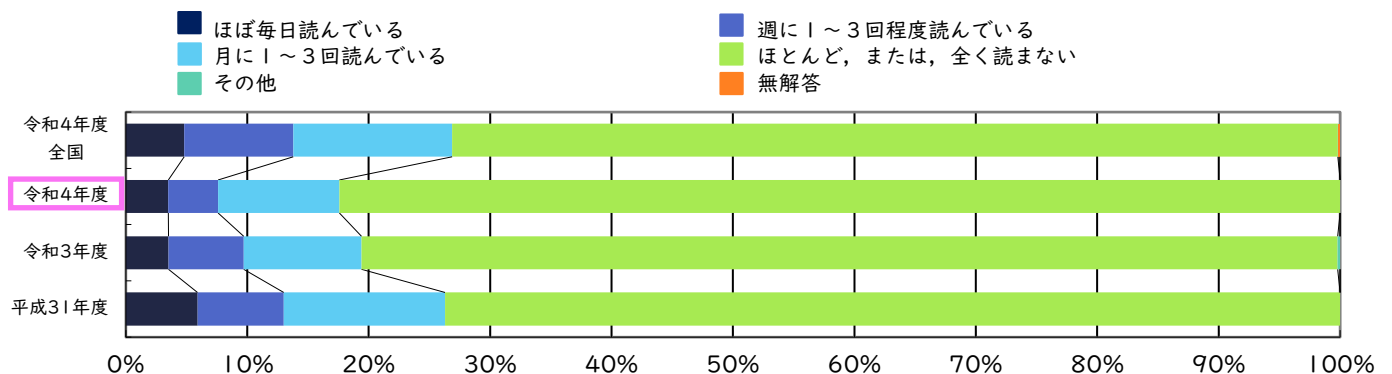
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



《質問》あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)

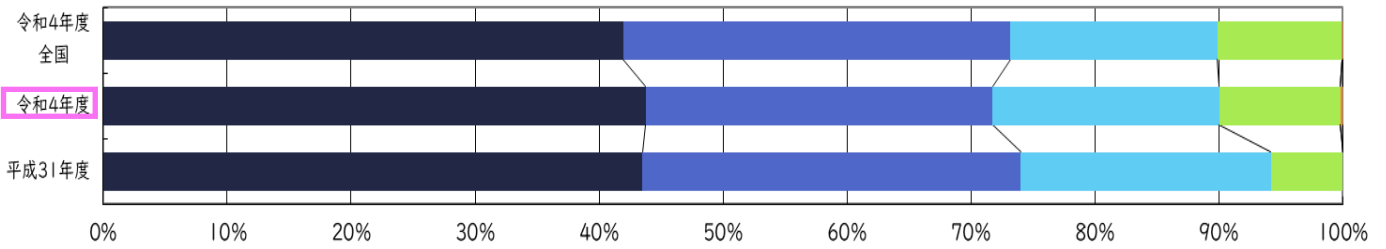


《質問》新聞を読んでいますか。



《質問》読書は好きですか。

- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない
- その他
- 無解答



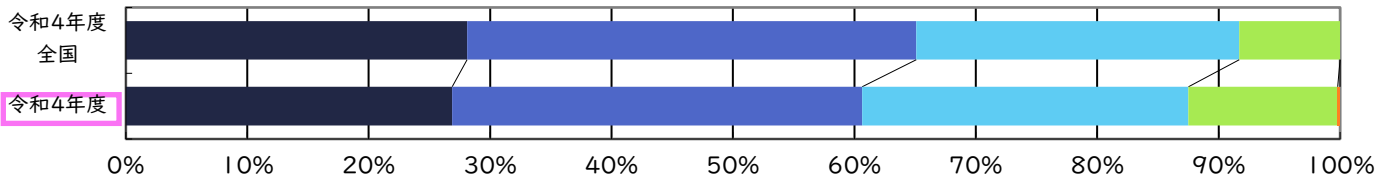
《学習習慣、学習環境等》

約70%の児童が読書が好きと肯定的回答をしており、普段（月曜日から金曜日）1日に2時間以上読書していると回答した児童は全国平均を上回りました。その一方で、読書を全くしないとする児童も増加傾向にあり、読書について二極化が見られます。また、家で自分で計画的に学習すると肯定的回答をした児童も減少傾向にあり、家庭学習や読書習慣に課題が見られました。

児童質問紙に関する調査結果 《地域や社会に関わる活動の状況》

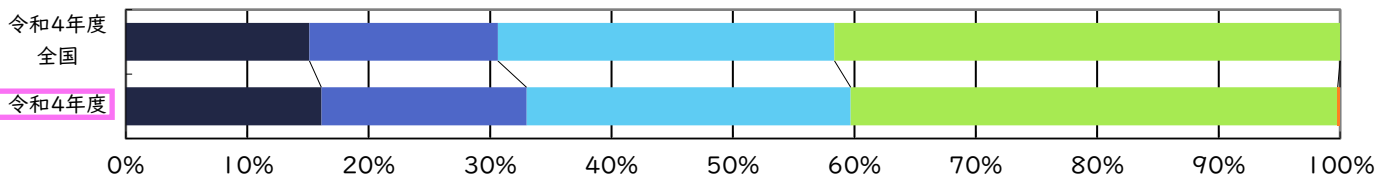
《質問》自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか。

- よくある
- あまりない
- その他
- ときどきある
- 全くない
- 無解答



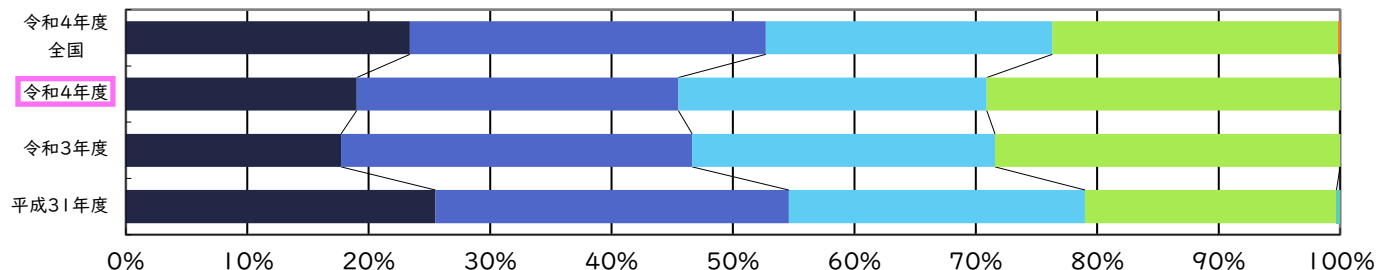
《質問》地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。（習い事の先生は除く）

- よくある
- あまりない
- その他
- ときどきある
- 全くない
- 無解答

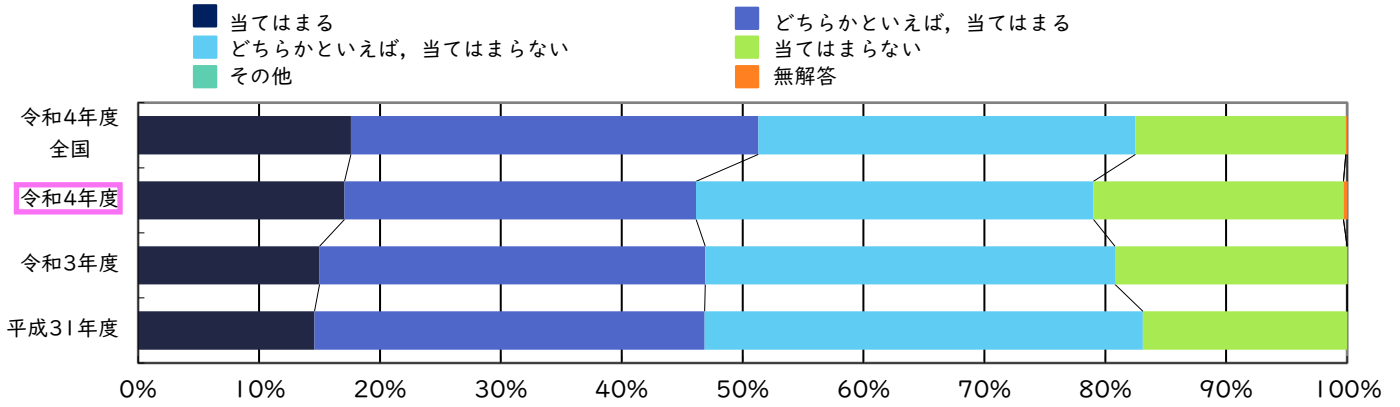


《質問》今住んでいる地域の行事に参加していますか。

- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- その他
- どちらかといえば、当てはまる
- 当てはまらない
- 無解答



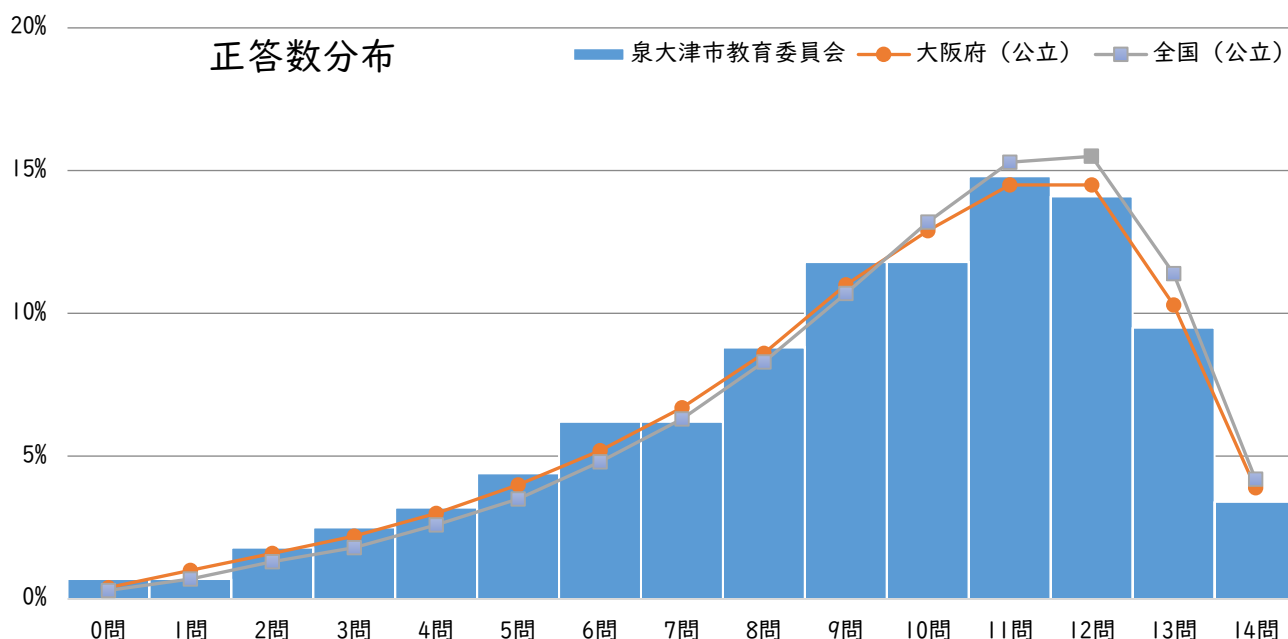
《質問》地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



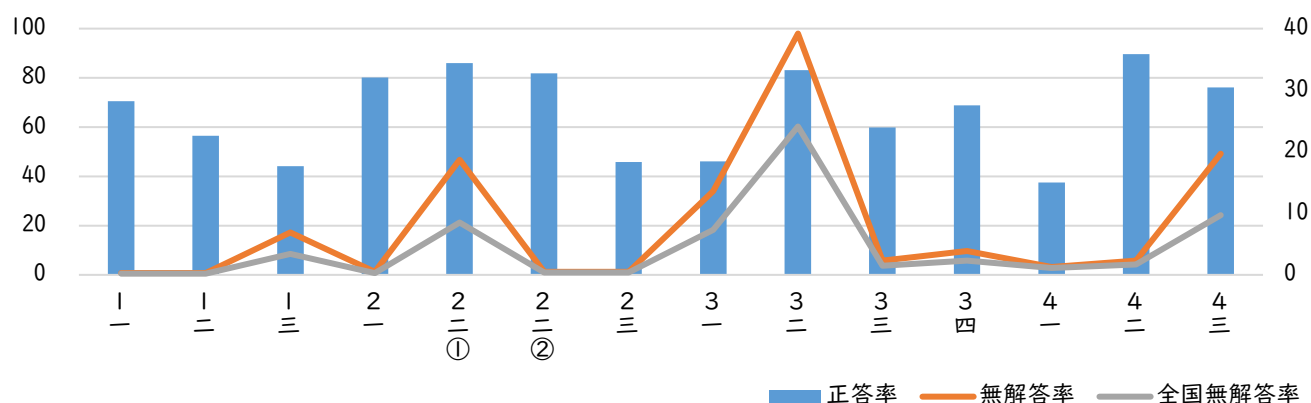
《地域や社会に関わる活動の状況等》

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすると回答した児童は全国平均を上回りました。また、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあると肯定回答した児童は増加傾向にありますが、地域の行事に参加している児童は減少傾向にあり、コロナ禍での様々な制限による影響が考えられます。

中学校国語



問題別 正答率・無解答率



正答数の中央値は全国平均との差がありませんでした。正答数分布を見ても、全国や大阪府の分布のピークと、大きな違いは見られませんでした。平均正答数は全国平均から0.4ポイント低くなりました。

問題ごとの正答率を、全国平均を100としたときの割合で比較すると、以下のような問題で大きな課題が見られました。

3- 「表現の技法について理解する」

4- 「行書の特徴を理解する」

どちらも知識・技能を問う問題です。3-は、比喩、倒置、体言止めなどの表現の技法の意味や用法を適切に理解しているかを問う問題でした。小学校での学習を踏まえ、「比喩」、「反復」、「倒置」、「体言止め」などの名称で呼ばれている表現の技法を、その意味や用法と結び付けて理解し、話や文章の中で使うことが大切です。

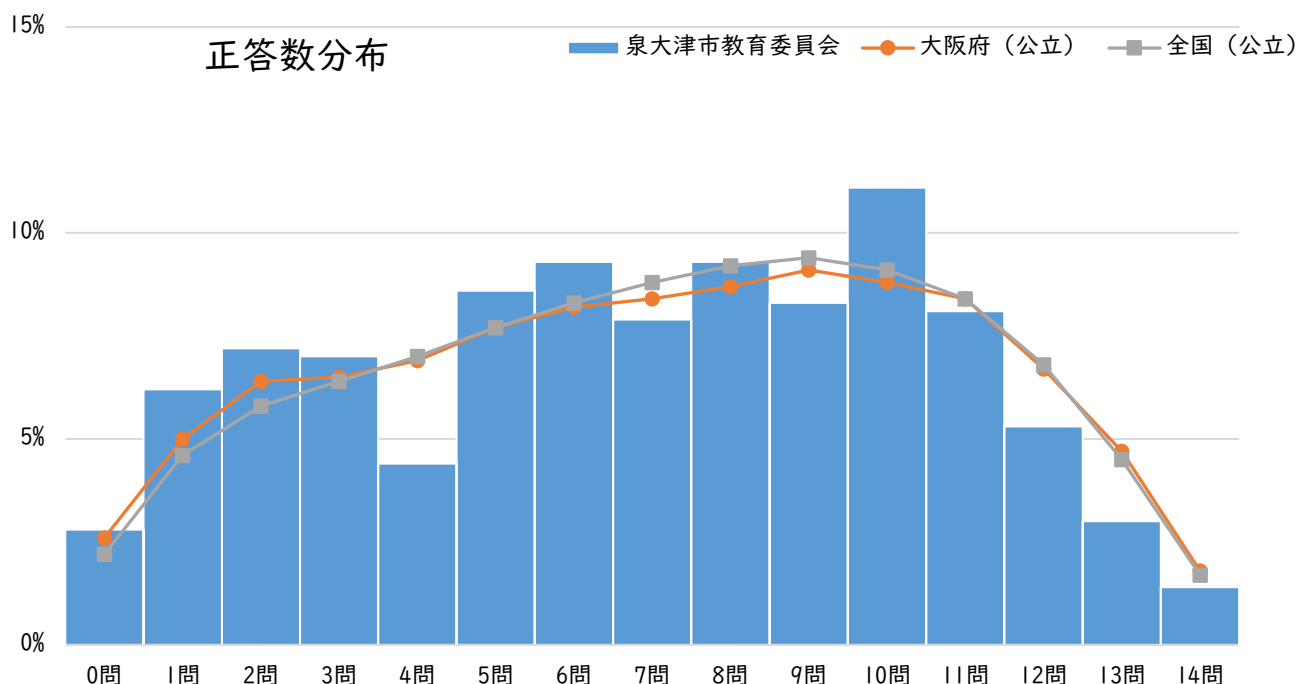
また、以下のような問題でも課題が見られました。

1三 「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」

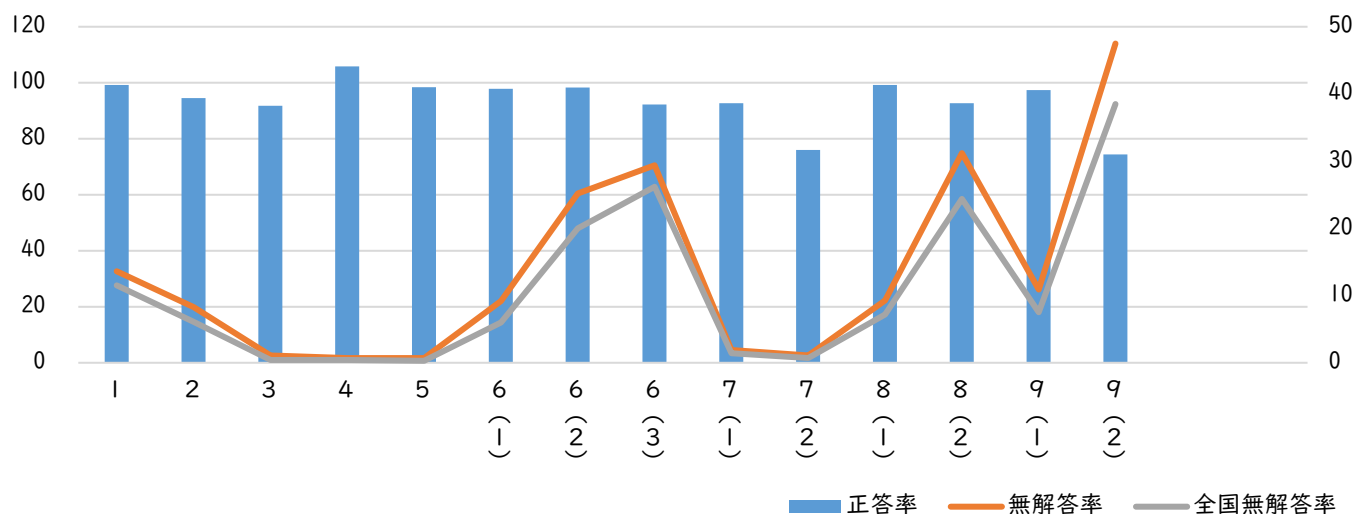
2三 「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」

自分の考えが分かりやすく伝わるように話すには、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や問の取り方、言葉遣いなどに注意したりして、表現の工夫をすることが大切です。また、意見文を書く際には、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確認し、自分の思いや考えを繰り返すだけでなく、根拠を文章の中に記述する必要があります。

中学校数学



問題別 正答率・無解答率



正答数の中央値は全国平均との差がありませんでした。正答数分布を見ると、10問正解した生徒の割合が最も多く、全国や大阪府の分布のピークよりやや高い結果となっています。しかし、下位層の割合もやや多く、平均正答数は全国平均から0.3ポイント低くなりました。

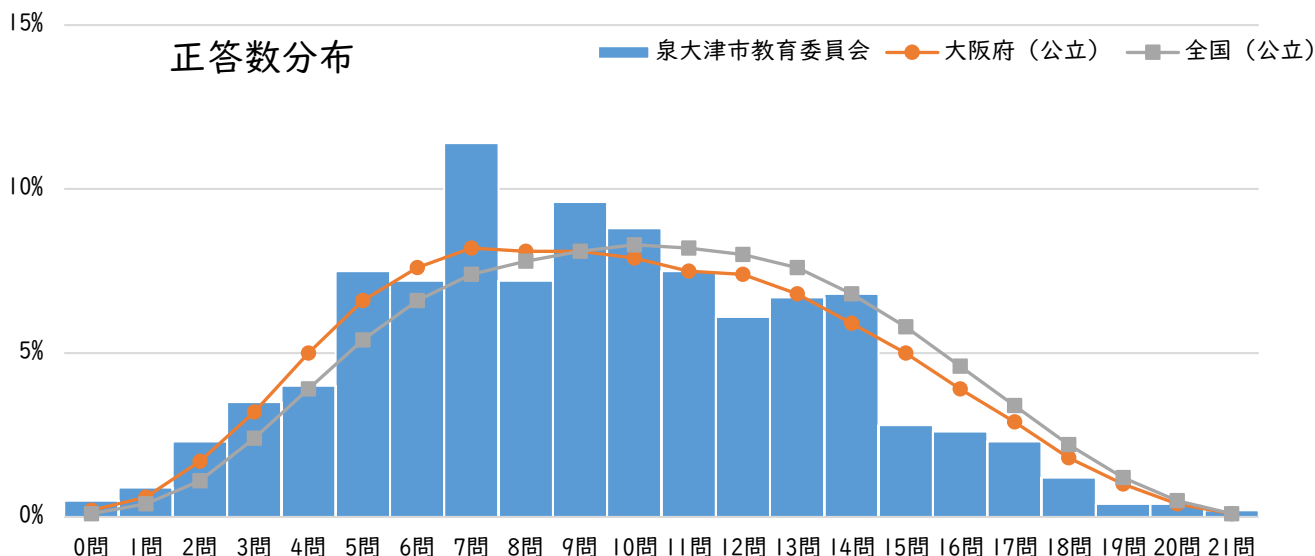
問題ごとの正答率を、全国平均を100としたときの割合で比較すると、以下のような問題で大きな課題が見られました。

7(2) 「箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる」

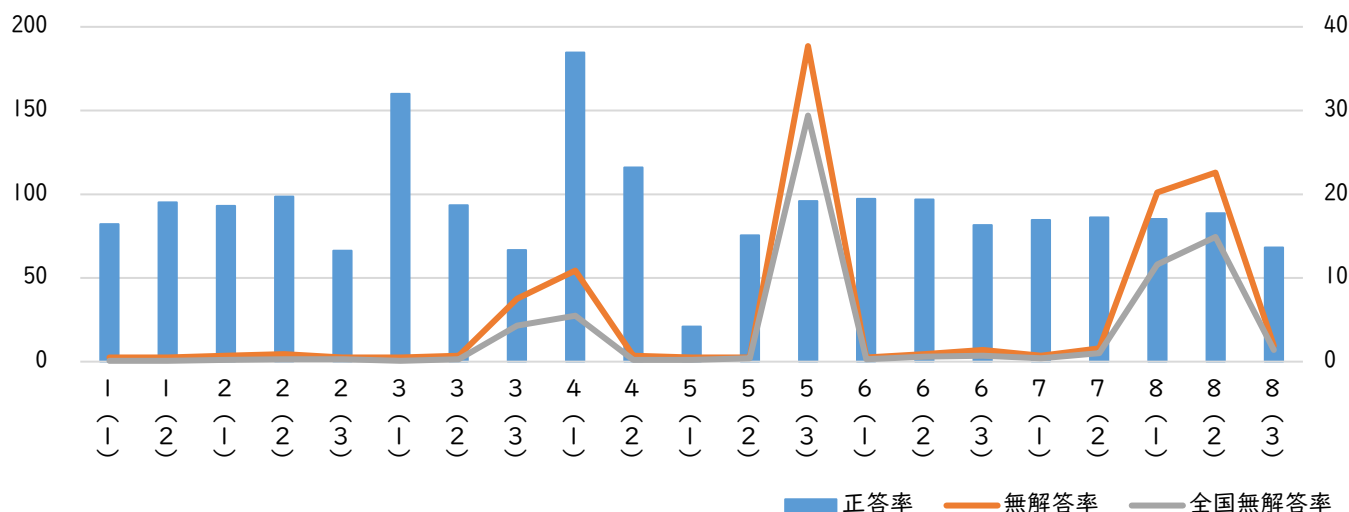
9(2) 「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」

7(2) から、日常生活や社会の事象を題材とした問題を取り上げ、統計的に解決する力に課題が見られました。また、9(2) のような問題では、結論を導くために何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したりする力が必要です。着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を、筋道を立てて考えたりすることに課題があるといえます。

中学校理科



問題別 正答率・無解答率



正答数の中央値は全国平均より1ポイント低く、正答数分布を見ると、正答数が7問の生徒の割合が最も多く、上位層が少ない結果となりました。また、平均正答数は全国より1.1ポイント低くなりました。

問題ごとの正答率を、全国平均を100としたときの割合で比較すると、以下のような問題で課題が見られました。

5(1) 「力の働きに関する知識及び技能を活用して、
物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる」

この問題は、静止している物体にはたらく重力とつり合う力を矢印で表す問題です。おもりにはたらく重力につり合う力が「ばねがおもりを押す力」であることは理解できているけれど、矢印で表すことができていないという誤答が多く見られました。

また、無解答率が高かったのは、以下の問題です。

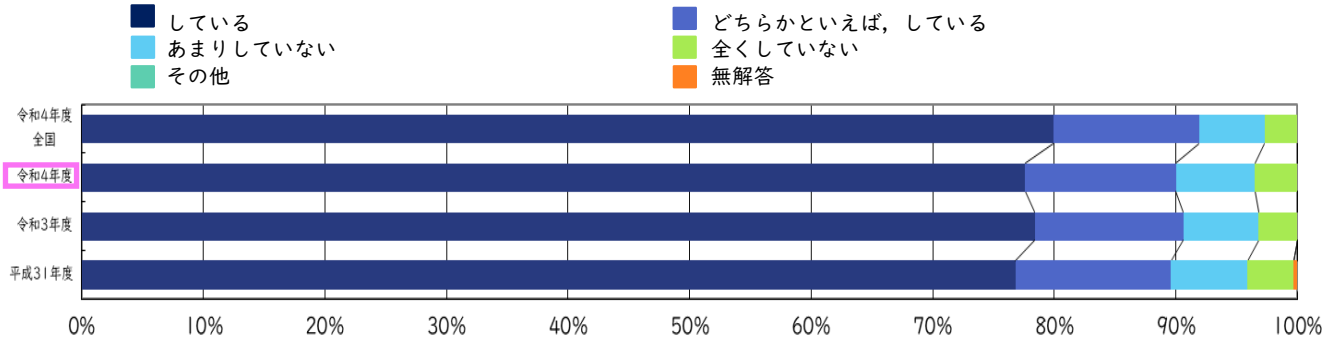
5(3) 「考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、
測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる」

無解答の生徒の中には、測定値を増やして実験を計画することは理解しているものの、測定する間隔と範囲に着目して加える力の大きさを具体的に示した実験を計画することが困難な生徒や、作成したグラフから妥当性を検討して、追加の実験方法をどのように計画するかを表現するのが困難な生徒がいると考えられます。実験結果をまとめるだけでなく、探求の過程を振り返り、考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善することに課題があるといえます。

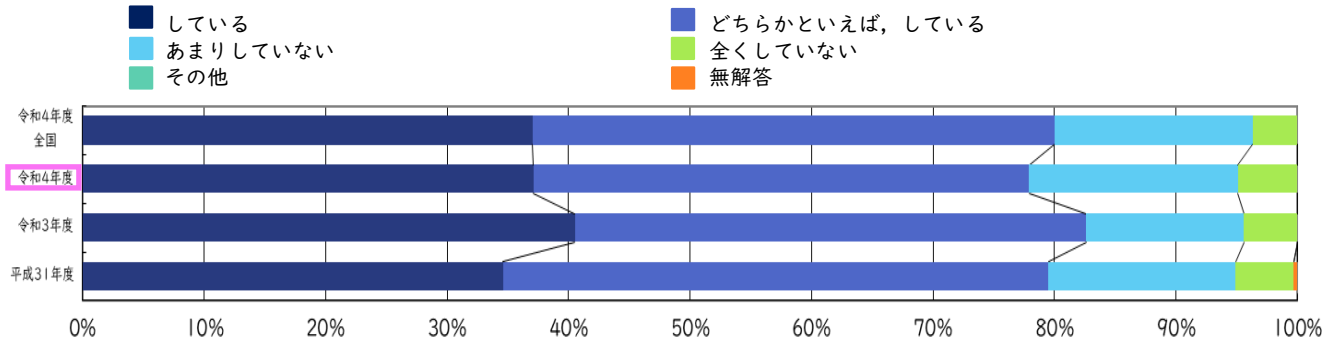
生徒質問紙に関する調査結果 《基本的生活習慣》

※基本的には、平成31年度以降の調査結果を経年で記載しています。ただし、実施年度によって質問項目が変わりますので、平成31年度の調査結果がない項目もあります。また、今年度より新設されました項目もあります。

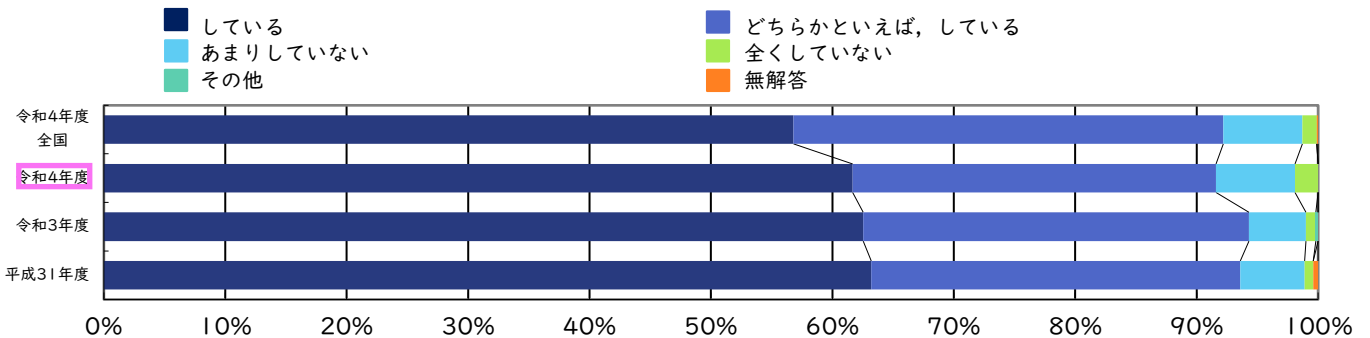
《質問》朝食を毎日食べていますか。



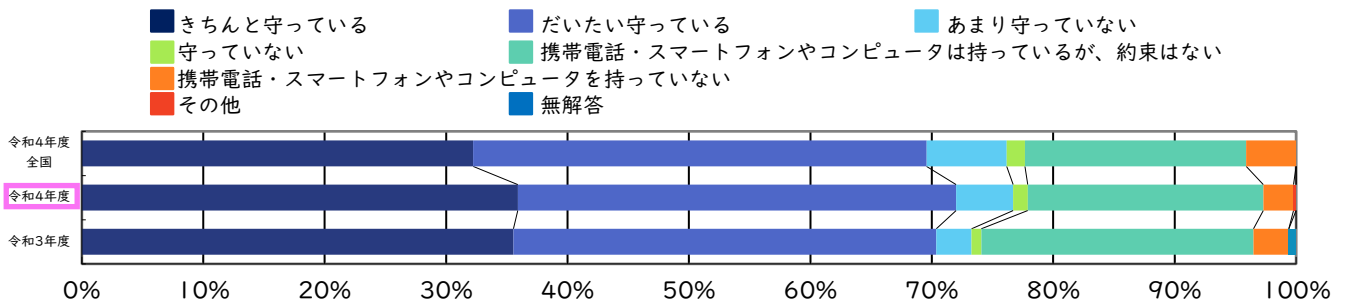
《質問》毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



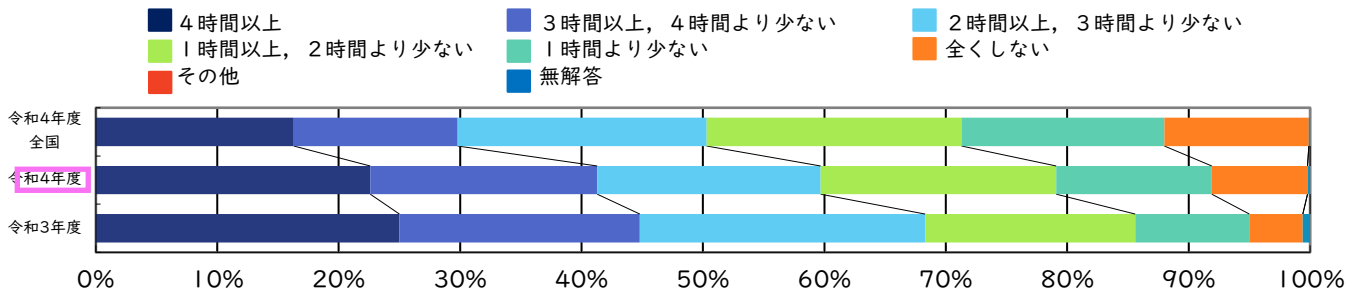
《質問》毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



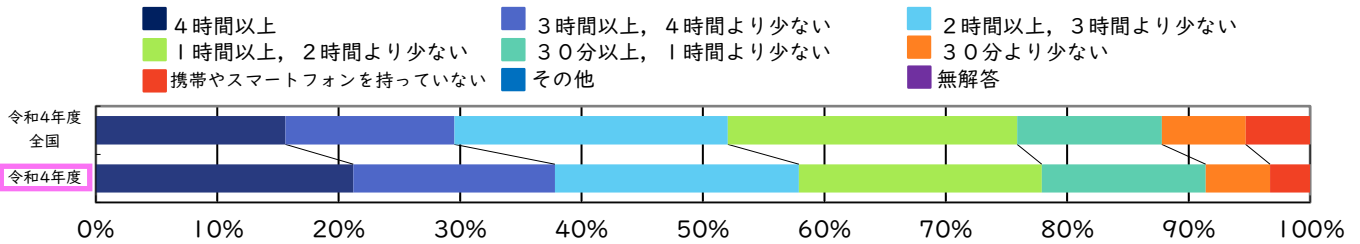
《質問》携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。



《質問》普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



《質問》普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）

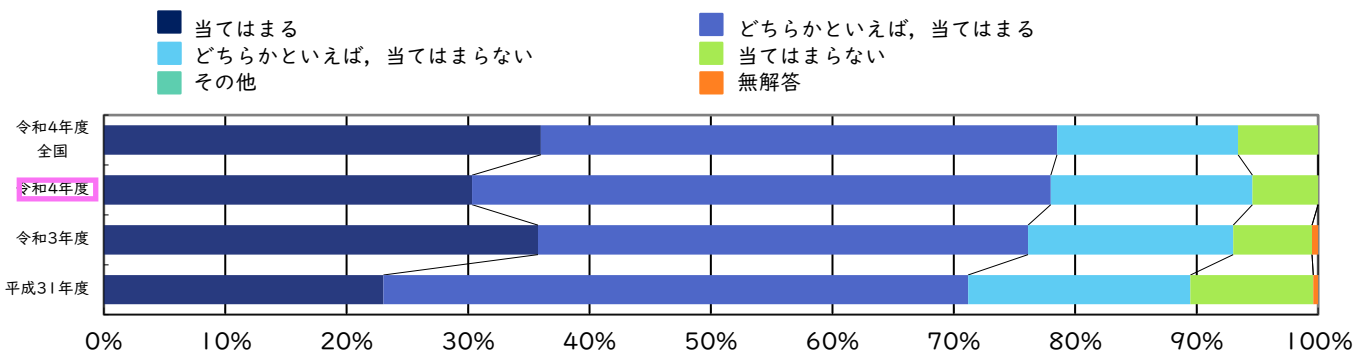


《基本的な生活習慣》

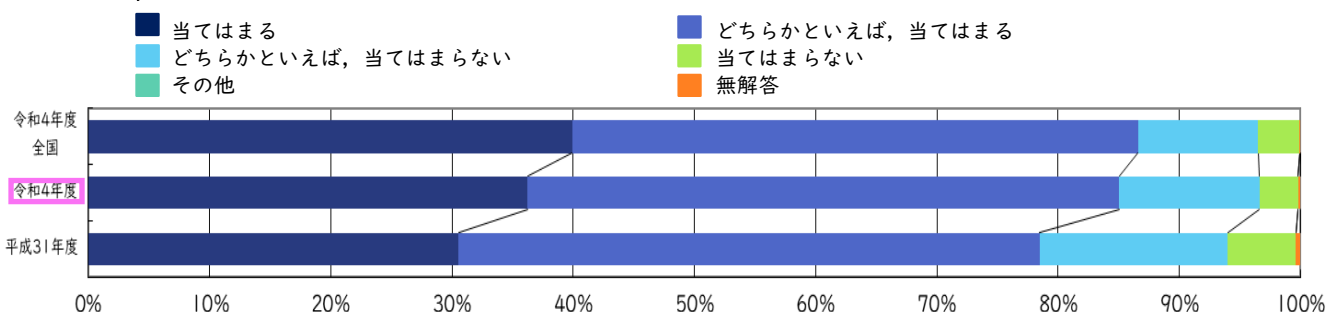
ほとんど毎日朝食を食べていると回答した生徒は80%を下回っており、約20%は朝食をほとんど食べずに通学し、午前中の活動を行っていることが分かりました。また、約60%の生徒が2時間以上テレビゲームを行ったり、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴を行ったりしていることもあり、基本的な生活習慣に課題が見られました。

生徒質問紙に関する調査結果 《挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感》

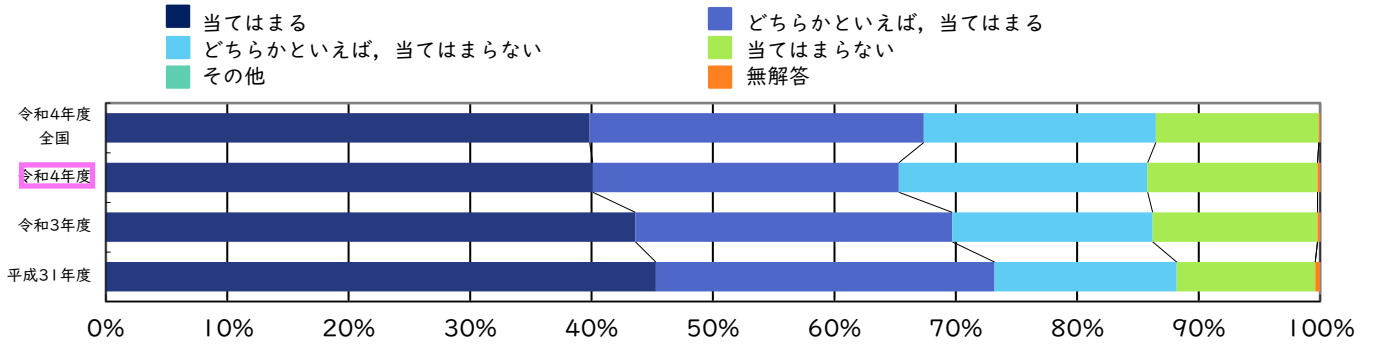
《質問》自分には、よいところがあると思いますか。



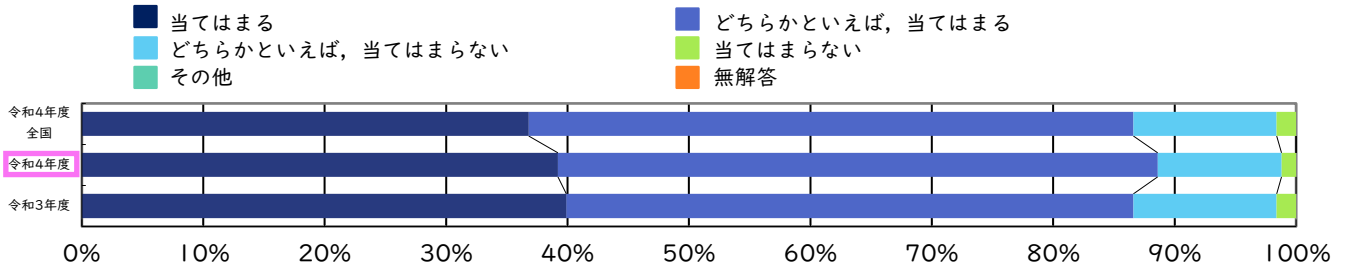
《質問》先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



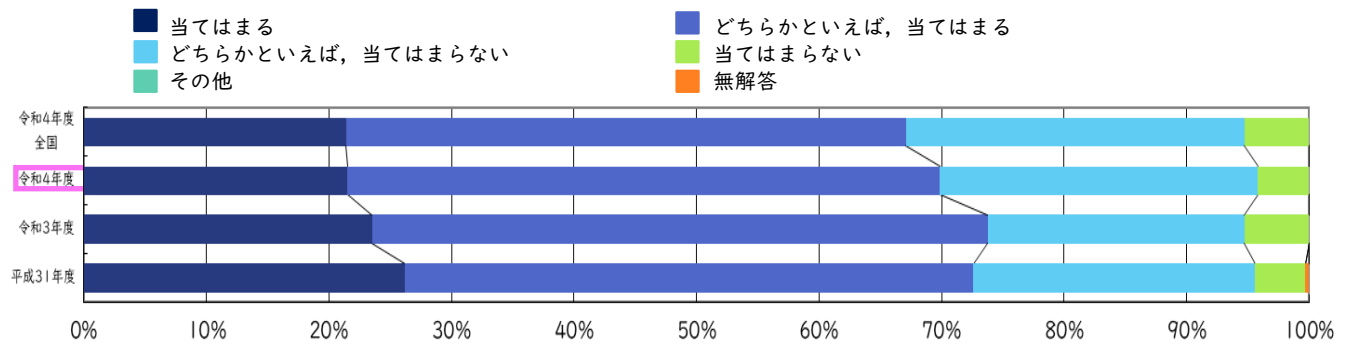
《質問》将来の夢や目標を持っていますか。



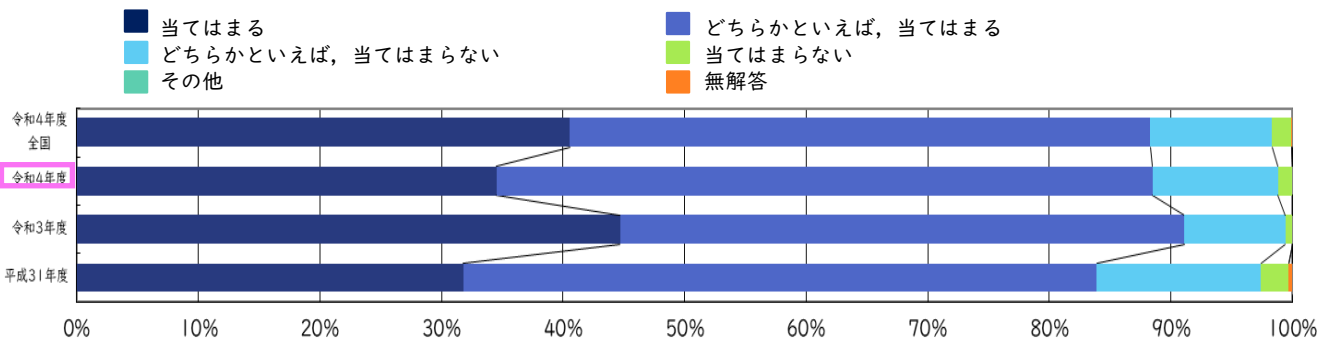
《質問》自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。



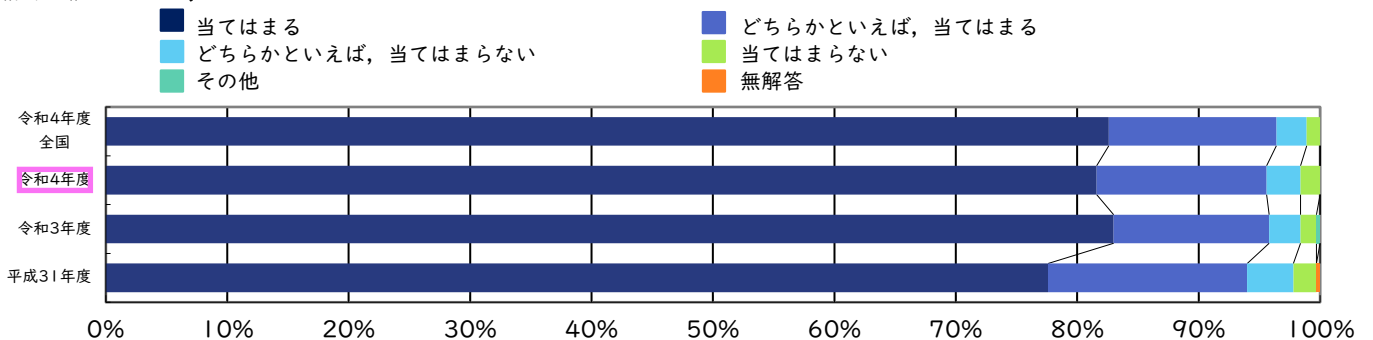
《質問》難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか。



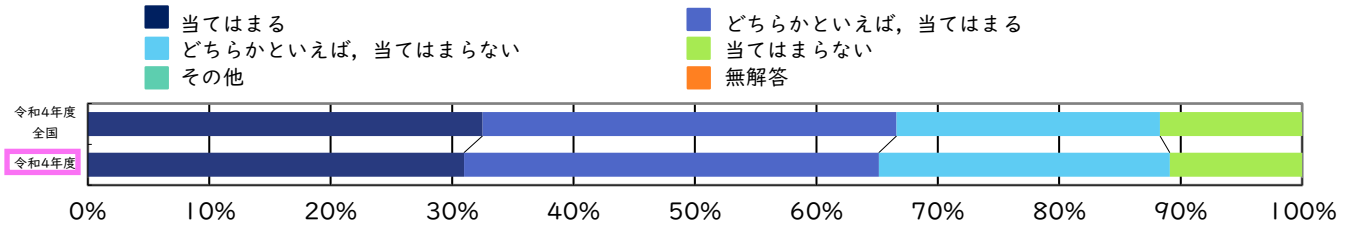
《質問》人が困っているときは、進んで助けていますか。



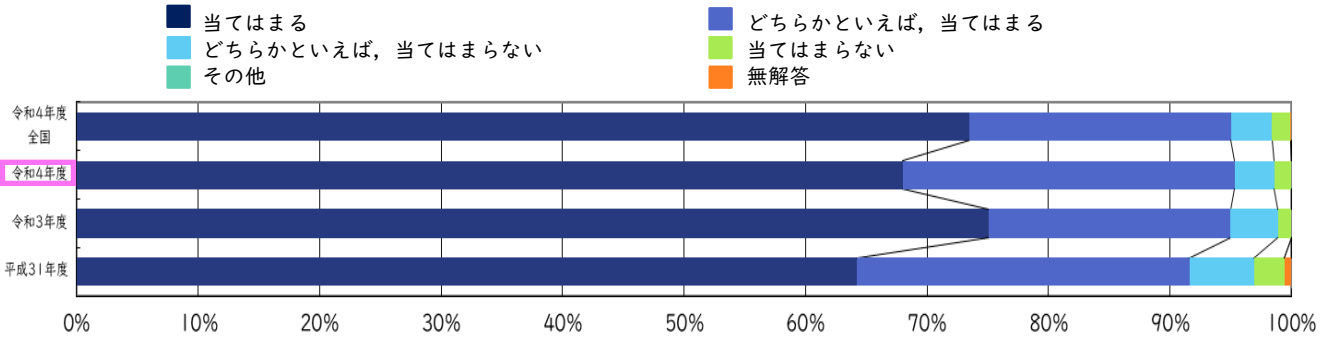
《質問》いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



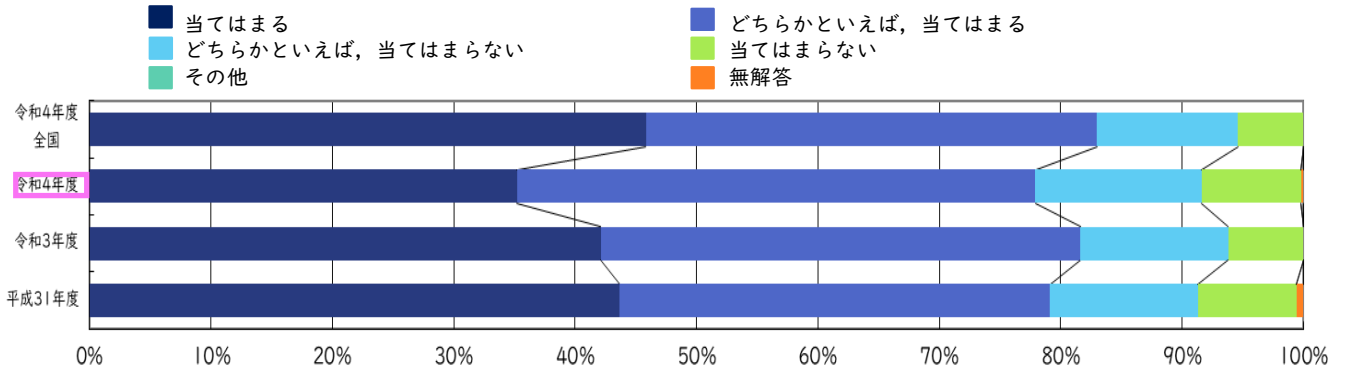
《質問》困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。



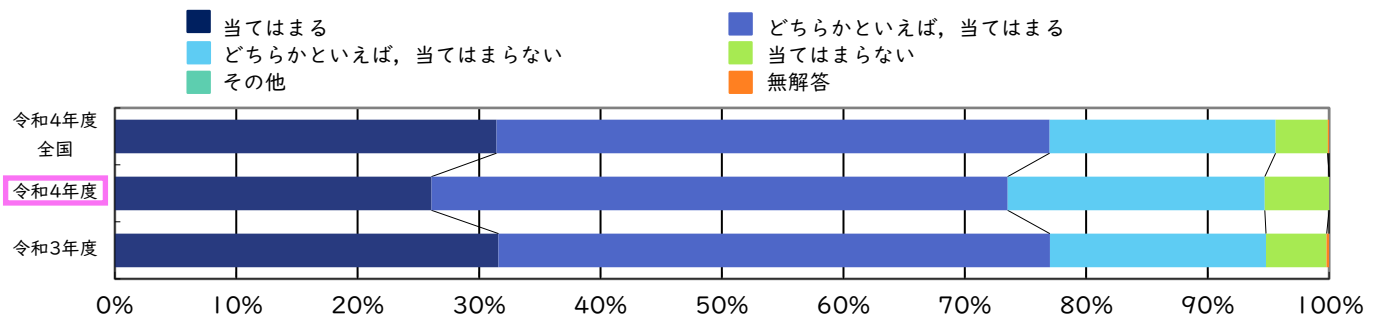
《質問》人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



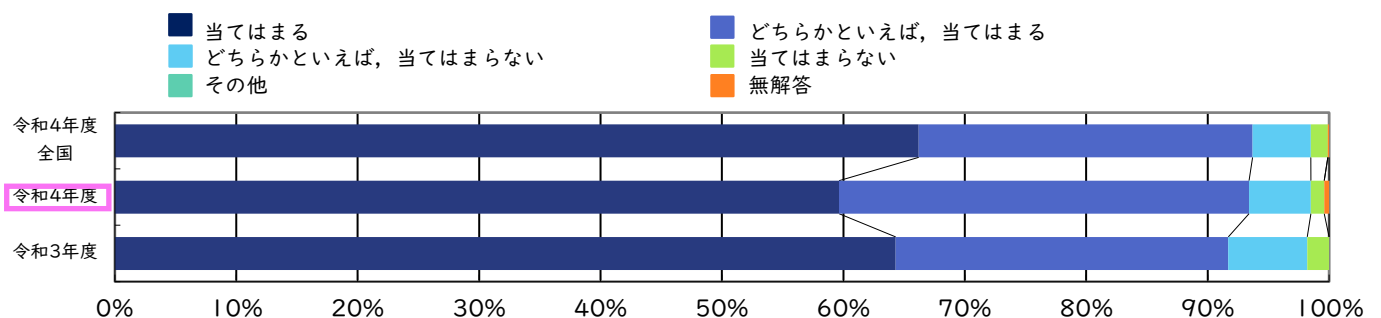
《質問》学校に行くのは楽しいと思いますか。



《質問》自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



《質問》友達と協力するのは楽しいと思いますか。

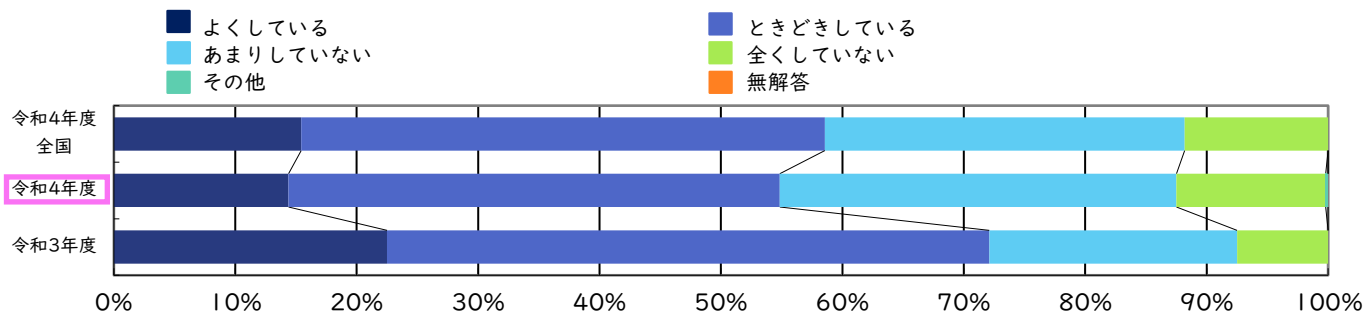


《挑戦心、達成感、基本意識、自己有用感》

将来の夢や目標を持っているか、失敗を恐れずに挑戦しているかという質問に対する肯定的回答は減少傾向にあります。一方で、自分でやると決めたことはやり遂げているか、人の役に立つ人間になりたいかという質問に対する肯定的回答は増加傾向にあります。特に、95%の生徒は、人の役に立つ人間になりたいと思っていることが分かりました。コロナ禍において様々な制限を受ける中、子どもたちが夢や希望を失わないためには、学校や地域・家庭など、身近な大人が子どもたちをサポートしていく仕掛けが必要であると考えます。

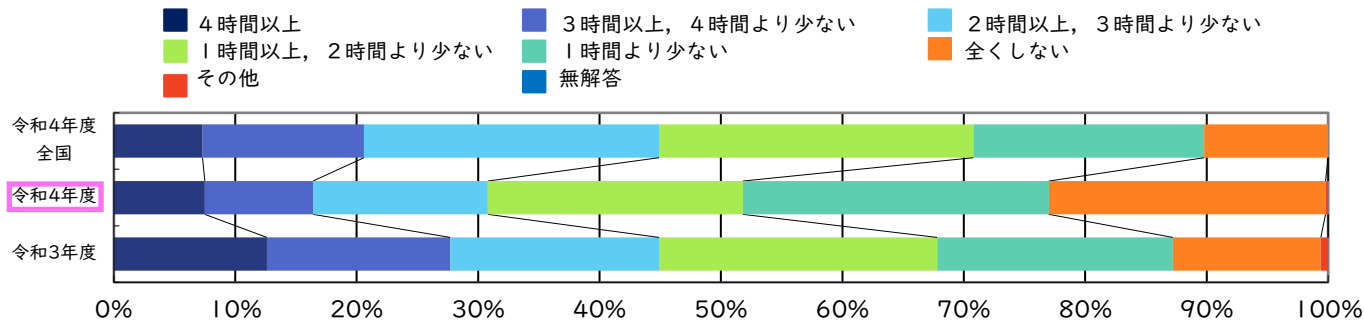
生徒質問紙に関する調査結果 《学習習慣、学習環境》

《質問》家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(学校の授業の予習や復習を含む)



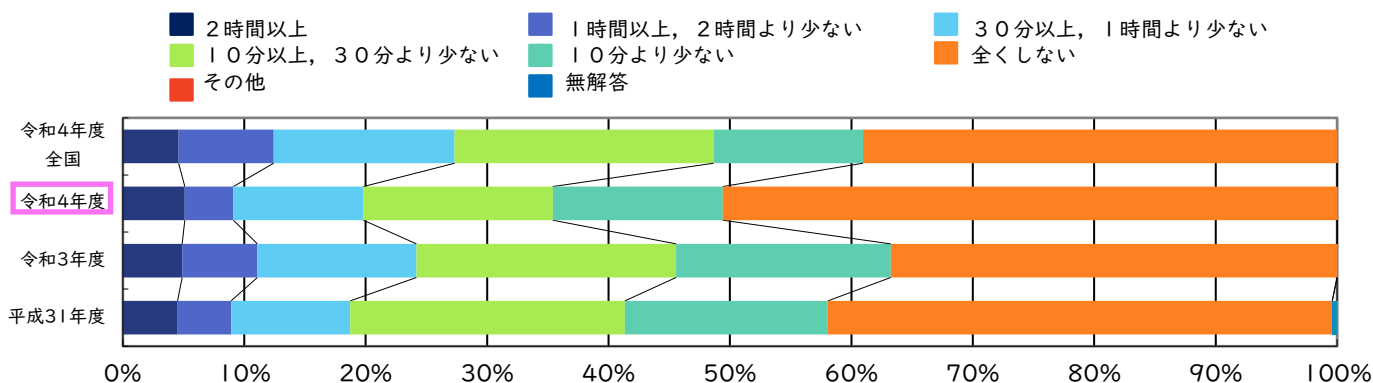
《質問》土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)

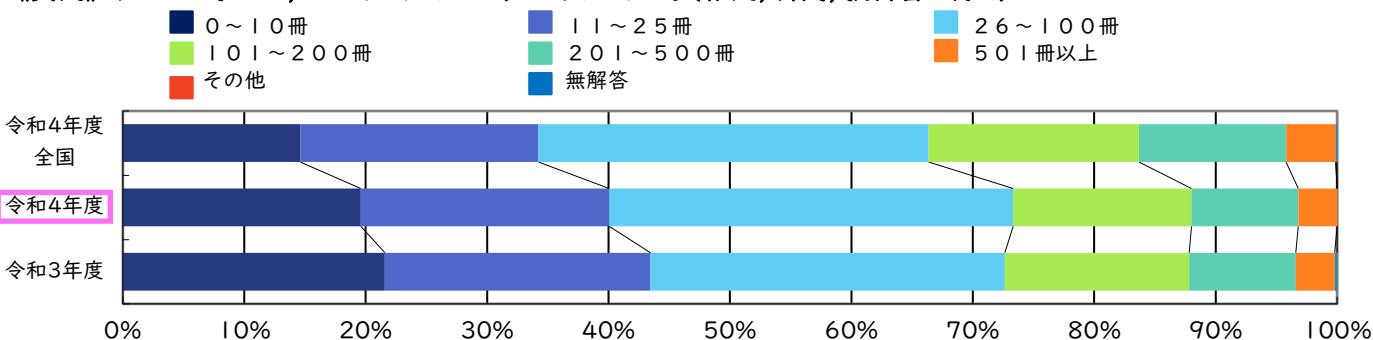


《質問》学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。

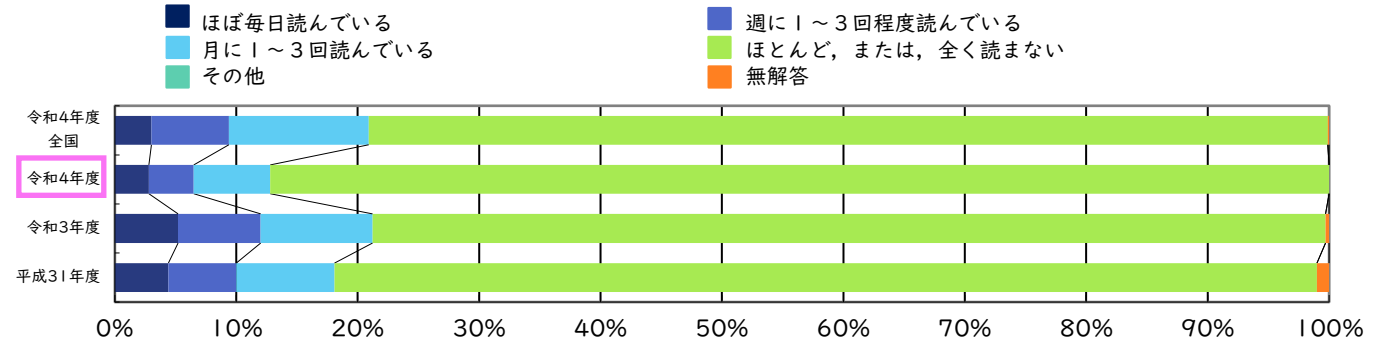
(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



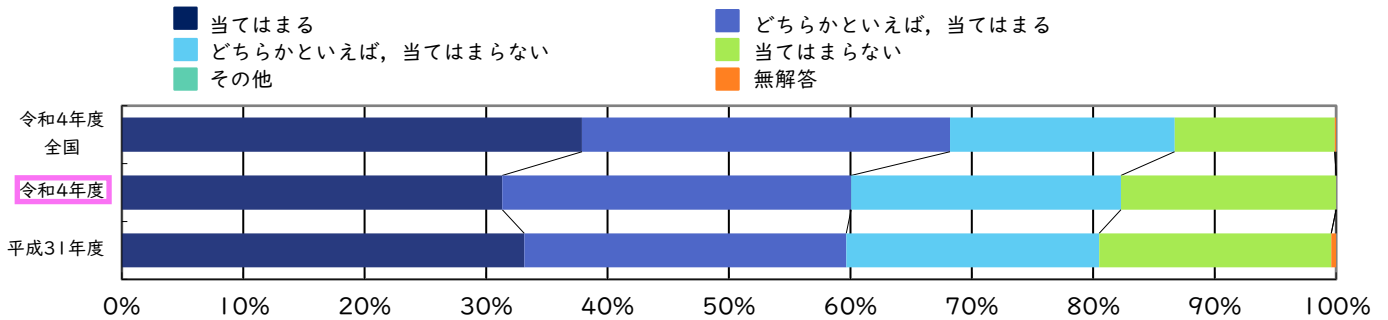
《質問》あなたの家には、およそどれくらい本がありますか。(雑誌、新聞、教科書は除く)



《質問》新聞を読んでいますか。



《質問》読書は好きですか。

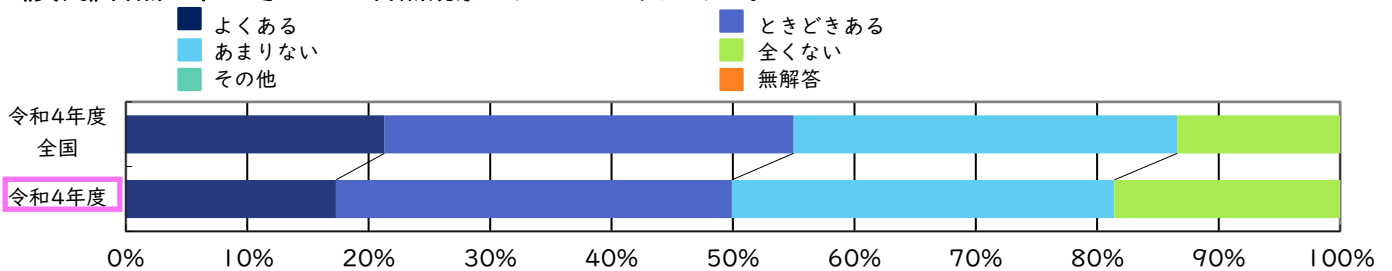


《学習習慣、学習環境等》

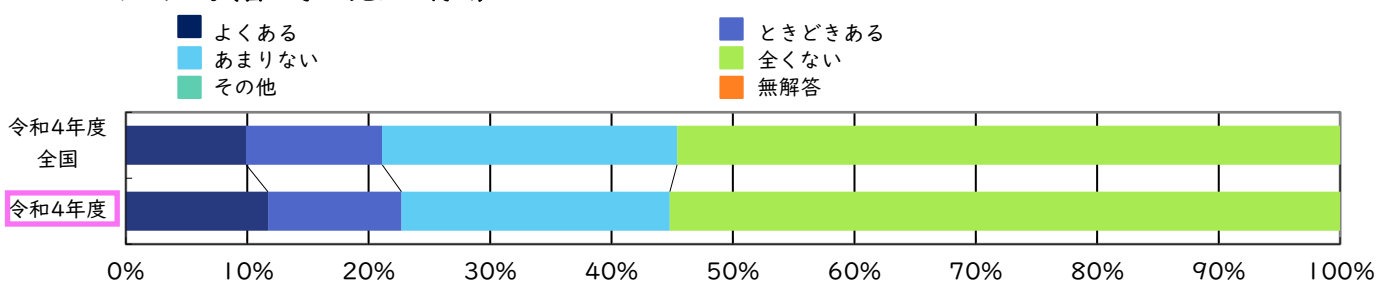
60%の生徒が読書が好きと肯定的回答をしており、学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)1日に2時間以上読書している生徒の割合が、全国平均を上回りました。その一方で、読書を全くしないとする生徒もおよそ半数となっており、読書について二極化が見られます。また、家で自分で計画的に学習すると肯定的回答をした生徒も減少傾向にあり、家庭学習や読書習慣に課題が見られました。

生徒質問紙に関する調査結果 《地域や社会に関わる活動の状況》

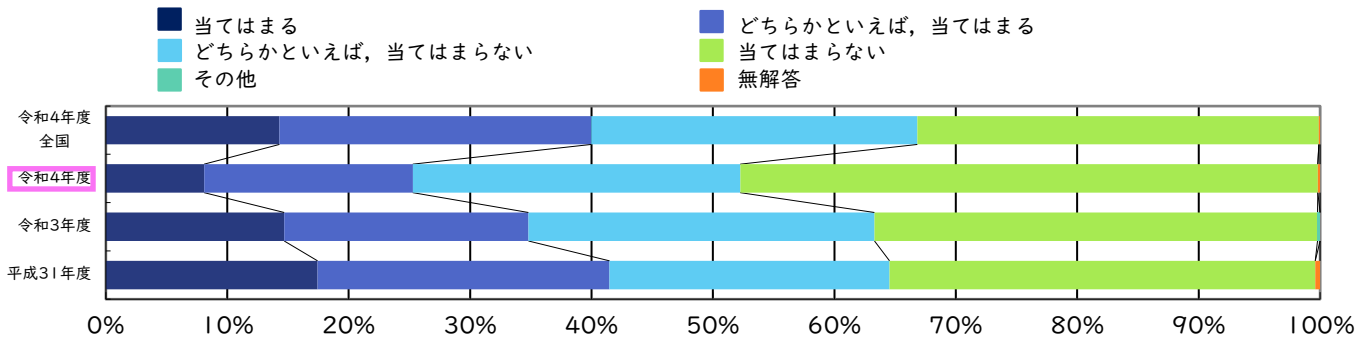
《質問》自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか。



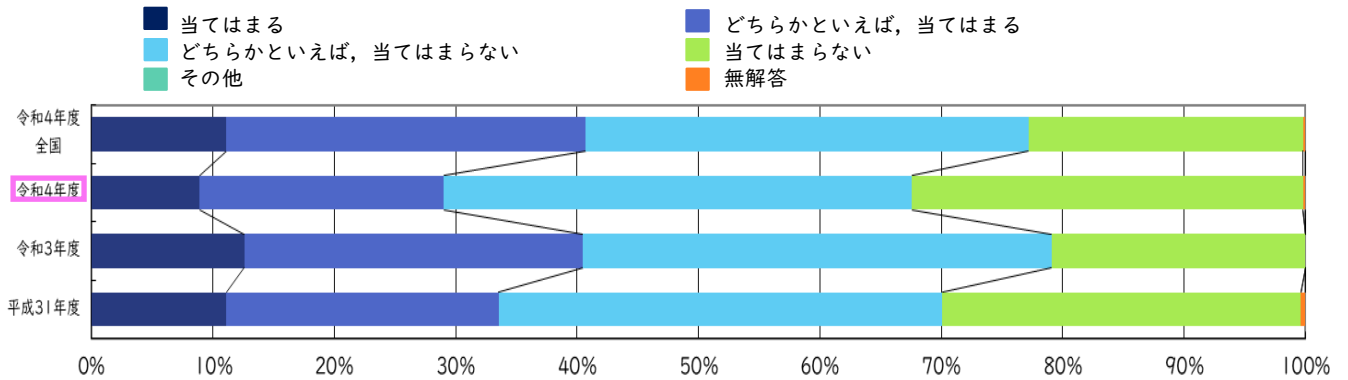
《質問》地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか。(習い事の先生は除く)



《質問》今住んでいる地域の行事に参加していますか。



《質問》地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。



《地域や社会に関わる活動の状況等》

地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあると回答した生徒は全国平均を上回りました。地域や社会をよくするために何をすべきかを考えたり、地域の行事に参加したりしている生徒は減少傾向にあり、コロナ禍での様々な制限による影響が考えられます。

成果と課題

本市では、記述式の問題について、経年的に課題があるとされてきました。今回の調査結果では、特に国語の記述に関して、小学校では人物像や物語の全体像を具体的に想像して書く問題で、中学校では目的に応じて必要な情報に着目して要約して書く問題で改善が見られました。その一方で、算数、数学や理科では、記述式の問題について課題が残ります。既習の知識を日常生活の中で活用しながら、考察(分析・解釈)し、自分の考えをもち、表現する力の育成が必要といえます。

《成果》

・自分の思いや考えを書く力の向上

《課題》

・基本的な知識及び技能の定着

・文章や図・表・グラフから必要な情報を読み取る力の向上

・情報を得て考えたことをまとめる力の向上

・学んだことを活用する力の向上

学校・教育委員会の取組み

○授業力の向上

今回の結果で見られた成果や課題は、小学校・中学校の校種を越えて、学校間でも共有できるよう、教育委員会から学校等に情報の発信をしています。小学校では、国語を中心に書くことの校内研究を行っている学校が多く、物語文や説明文の単元では、教科書の全文表示を行い、文章全体から読み解く取組みを行っている学校も多いです。また、「ことばのたからばこ」として教科書に掲載されている言葉(表現)を使い、当該学年に応じた文づくりを全学年で定期的に行っている学校もあります。中学校では、全ての学校で、子どもたちの学びに向かう意欲の向上をめざしております。その結果、教科書の学びに留まらず、地域や実社会につながる単元のゴール設定を行う取組みが、国語科だけでなく多くの教科で広がり始めています。さらに、文章から必要な情報に着目して要約する取組みを行っている学校は小学校・中学校ともに多く、これらの取組みが、書く力の向上につながったと考えています。今後、取組みの継続とともに、各校でも詳しく分析し、市内全体で情報の共有を深めてまいります。

○個別最適な学びと協働的な学び

本市の「強み」でもある ICT の活用については、積極的な活用だけに留まらず、例えば、学級全体で自分の思いや考えを共有する場面等、ICT を活用することで、より効果的な成果が期待できる場面での活用をめざしてまいります。また、子どもたちが主体的に学習に取り組み、一人ひとりの能力を伸ばせるよう、従来の一斉指導ではない個別最適な学びを推進するとともに、個別最適な学びの成果をグループや学級全体での協働的な学びに生かしたり、さらにその成果を一人ひとりの個別最適な学びに還元したりするなど、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ってまいります。

○「読む力」の向上

各校の学校図書館と泉大津市立図書館 SHEEPLA との連携が進み、学校図書館の機能がより充実したことで、教科を問わず、授業の中での学校図書館の活用が進んでいます。また、令和4年度後半期より子どもたちの1人1台端末を使って読むことができる電子書籍を導入しており、本に親しむ機会を増やしています。このような取組みを通して、今後も読解力や資料活用能力の育成を図ってまいります。

家庭との連携

家庭学習の習慣については、平日3時間以上学習する児童生徒と全くしないとする児童生徒が全国平均を上回り、二極化しています。また、携帯電話やスマートフォンの使用時間、ゲームをする時間も増えてきています。子どもたちにとって、学校や地域、家庭からの温かい声掛けは大きな励みとなります。ご家庭でも、例えば、お子さまと一緒に家庭学習時間を決めていただいたり、携帯電話やスマートフォンの使い方、ゲームをする時間等について約束事を決めていただいたりする等、引き続き、学習習慣・生活習慣の確立にご協力ください。また、学校では教科の学習において実生活につながる学びを大切にしています。そのため、まずは学校での学習内容や考えたことを聞いていただくことは学習の定着にも効果的ですので、ご協力をお願いいたします。